

日本消防



- (財) 日本消防協会役員会議を開催
- DVD『少年消防クラブ実技指導マニュアル』について
- DVD『ドイツの青少年消防隊』の制作について

- 絵 第10代日本消防協会会長に高木繁光氏が就任 (財)日本消防協会
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」 (財)日本消防協会

日本消防協会会長就任にあたって	……………(財)日本消防協会 会長 高木 繁光	…1
巻頭言 消防団員への私の思い	……………(財)大阪府消防協会 会長 秋田 治夫	…2
財団法人日本消防協会役員会議	……………(財)日本消防協会	…4
平成22年春の叙勲伝達式・褒章伝達式	……………総務省消防庁	…8
DVD『少年消防クラブ実技指導マニュアル』について	……………少年消防クラブ活性化推進会議	…23
DVD『ドイツの青少年消防隊』の制作について	……………少年消防クラブ活性化推進会議	…26
消防育英会評議員会・理事会	……………財団法人 消防育英会	…27
特別表彰「まとい」を受章して「安全なまちづくり」に向けて	……………愛知県知多市消防団 団長 泉 章人	…28
東西南北(静岡県)“一団和気”信頼される消防団を目指して!	……………静岡県沼津市消防団 団長 山口 純一	…30
東西南北(山形県)「地域に根ざした消防団員を目指して」	……………山形県遊佐町消防団 団長 高橋 正義	…32
東西南北(滋賀県)「市民が主役のまちづくり」をめざして(まちが元気であるために)	……………滋賀県守山市消防団 団長 美濃部 安一	…34
東西南北(熊本県)「やればできる」はみんなの合言葉	……………熊本県美里町消防団 団長 大原 明和	…36
シンフォニー(岩手県)「地域に必要な女性消防団員を目指して」	……………岩手県滝沢村消防団 本部付部長 齊藤 和子	…38
台風に対する備え	……………総務省消防庁 防災課	…40
住民自らによる災害への備え	……………総務省消防庁 防災課	…41
花火・火遊びによる火災の防止	……………総務省消防庁 予防課	…42
電気器具の安全な取扱い	……………総務省消防庁 予防課	…43
うちの名物団員	……………	…44
消防団の広場(富山県)地域と消防団	……………富山県滑川市消防団 団長 西坂 継夫	…46

7月の日本消防協会関係行事
編集後記

表紙写真説明

富士山とヘルシーパーク裾野

裾野市は、静岡県の東部、富士山のふもとに広がり、東には箱根外輪山、西には愛鷹連山と、豊かな自然に囲まれた、人口54,413人の工業のまちです。

平成7年には、「健康文化都市すその」を宣言して、豊かな自然を守り、健やかで活気に満ちた人生と地域をきずくことを、目指しています。

写真は、温泉施設を備えた市民の憩いの場「ヘルシーパーク裾野」から見た、雄大な富士山の眺望です。

静岡県 裾野市

第10代日本消防協会会長に高木繁光氏が就任

財団法人 日本消防協会



代議員会でのあいさつ（平成22年5月20日）

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」

財団法人 日本消防協会



4月放送に出演の大沢啓二さんとニッポン放送山本剛士アナウンサー



5月放送に出演の薬師寺保栄さん



6月放送に出演のガッツ石松さん

日本消防協会会長就任にあたって

(財) 日本消防協会
会長 高木 繁光



全国の消防団員、消防職員の皆様が、常日頃、防災の最前線にあって、地域の安心・安全を守るため、昼夜を問わず献身的にご尽力をされていることに対し、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、私はこのたび、日本消防協会第十代会長に就任いたしました。私は、消防団員として59年間、団長として19年間消防の現場にあり、また、10年余、北海道消防協会会長や日本消防協会副会長の職をつとめて参りました。私のこうした経験を日本消防協会の運営に生かし、我が国消防の益々の発展のため、全力を傾注する覚悟でございます。

我が国の消防は、先人のたゆまぬご努力により国民から多大の信頼と期待を寄せられております。しかし、今日、災害や事故は大規模複雑化の傾向を強めております。住宅等における火災は、依然としてあとを絶たずこれにより多くの方が亡くなっておられます。また、台風、集中豪雨による風水害も相次ぎ、毎年大きな被害が生じております。さらには、大規模地震の発生も懸念されており、国民保護法の想定事態も含め、あらゆる災害・非常事態において消防がその使命を果たすことが安全で安心な社会を築くうえで益々重要となっております。

そのためには、常備消防だけでなく、「自らの地域は自ら守る」という郷土愛護の精神に支えられた消防団が地域防災の要として大きな役割を果たさなければなりません。しかし、一方で消防団は多くの課題も抱えております。

まず、鈍化したとはいえ、なお減少傾向にある消防団員の確保、消防団の役割の拡がりに対応した装備、技術や知識の向上、女性消防団員の活動の支援、消防団活動を支える福利厚生充実と共済制度の安定的な運営、公益法人改革等への的確な対応その他様々な課題がございます。

このような中で、私は、当協会が直面する課題の解決に当たっては、できるだけ消防団の現場からの声を反映させるよう努力をして参りたいと考えております。各都道府県協会、消防団員、消防職員の皆様のご協力をいただきながら、関係機関、団体との連携を強め、日本消防の更なる発展のため、全力を傾けて参ります。

全国の消防関係者の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げますとともに、皆様ますますご壮健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をしていただくことができますよう衷心よりお祈りしてごあいさついたします。

消防団員への私の思い

財団法人 大阪府消防協会 会長 秋田 治夫



消防団員は、本業のかたわら「地域の安全と安心を自分たちのまちは自分たちで守る」という信念を持った人々の集まりであり、そこには尊い使命感が存在いたしております。消防・防災に関する知識や技術の取得が要請され、火災発生時における消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時における救助・救出活動に出動することになります。場合によっては、自分の命をかけてまで、それにのぞむことになりましょう。

消防団員であるから、消防活動や防災活動に際して、その時にのぞんで、それ相應の働きをすれば良いのであるという考えもありましょうが、私は、団員としての誇り高い自覚と規律を、さらに求めたいと思います。それこそが、何事かが起きたときに、近隣の住民のみなさんからの強い支持と支援、協力をいただけるものと確信しているからに他なりません。

この思いから、府内各地域支部長の賛同のもと、府内消防学校の全面的協力を得て、団員の初任教育の内容をあらためることにいたしました。

実施場所は府立消防学校。多くの団員にとっては、それこそ初めて足を踏み入れる所でありましょう。団員でなかったら、おそらくは人生で一度も訪問する機会もなか

ったでありましょう。従来は各地域の学校等のご協力で実施してまいりましたが、消防とは何かを教えることをその目的とする、消防学校の正門をくぐった瞬間から、厳粛な雰囲気になっていただきましょう。

そして、実際の教育は、「まずは形から入る」を基本として、整列、敬礼、号令、行進訓練を徹底的に行うことにし、さらに、座学は消防団員とは何かという基礎だけに限ることとしました。また、最前線での核となり、団員と最も接する機会が多く、団員への影響力も強い班長、部長への規律訓練、特に指揮力の育成にも努めていくことといたしました。この結果がどのような形となってあらわれてくるのか、期待をこめて見守るつもりです。

この巻頭言を拝見させていただきますと、その地方で起きた、あるいは起きるであろう災害への対処について、多くの方々が述べておられます。私といたしましても、全く同じ思いであります。 「阪神淡路大震災」が起きたときに、関西人は、そのほとんどが「関西では地震がない」と思っていたという認識が明らかになりました。それが単なる希望的な見方に過ぎなかったということを、「いやというほど知らされた」ところです。 昨年は「伊勢湾台風」

によって大被害を受けてから50年という節目の年でした。あらためて、伊勢湾における高潮被害がどのようなものであったのが報道されておりましたが、わが大阪府民にとっては、どうやらよそ事であったような感じがいなめません。ところが本当にそれで良いのでしょうか。

大阪には昭和時代に、それこそわが国の台風災害史上に特筆される昭和の三大台風のひとつである室戸台風が昭和9年9月21日朝、四国から近畿地方を襲い、室戸岬で陸上における観測史上最低の九一二ヘクトパスカル（島しょ部は除く）を記録し、全国に甚大なる被害を与え、特に大阪府内では瞬間最大で60mを越す暴風によって学校が倒壊し、児童生徒・教職員に600人を超える犠牲者を出しています。さらには高潮によって大阪府内の海岸部も相当な被害を受けたという事実があったことも、もうすでに過去のものとなりつつあるようです。大阪には昭和36年9月16日の第2室戸台風以来、台風らしい台風が襲来せずに、人々は、特に若いみなさんは「大阪には台風がこない」という意識が定着しつつあるようです。これこそ、あの「阪神淡路大震災」前の関西人の認識と同じものでありましょう。

私はことあるごとに、あるいはそのような言葉を耳にするたびに、「いや、そのようなことはない。自然をなめてはいけない」と教えることといたしておりますが、なかなか思うとおりになりません。

消防団員のみなさん、特に班長、部長、分団長の方々にお願いしたいことは、自分たちが住む町や村が、いったいどのような地域環境、自然環境の状況にあるのか。過

去にどのような災害に見舞われたのか。火災なり自然災害等が起きるとすれば、延焼は？災害の拡大は？他地域から災害が及んでくるとすれば、どのような形でくるのか等々を常日頃から頭のどこかで考えておいていただきたいと思います。それこそが、常に意識をしておかねばならない「危機管理」そのものでありましょう。

繰り返しになりますが、消防団員は常に危機管理とは何かを考え、いかなる場所において危機、災害に直面したとしても、落ち着いて対処するためにも、過去の災害に学び、それを現在に活かしていくには、どうすればよいのかを常に考えておいていただきたいと思います。

がんばろう消防団！

※昭和の三大台風

- | | |
|------------|-----------------------|
| 昭和9年9月21日 | 室戸台風（全国。特に大阪） |
| 昭和20年9月17日 | 枕崎台風（西日本。特に広島） |
| 昭和34年9月26日 | 伊勢湾台風（近畿から中部。特に伊勢湾沿岸） |



財団法人日本消防協会役員会議

財団法人 日本消防協会

平成22年5月20日（木）、日本消防会館において財団法人日本消防協会の理事会及び代議員会が開催されました。

この会議において、平成22年5月29日を持って任期満了となる日本消防協会の次期会長については、代議員会の推薦により高木繁光副会長（現北海道消防協会会長）が第10代日本消防協会会長に就任されることが決定しました。

また、副会長には8ブロックから推薦のあった8名の方々が就任されることとなりました。

財団法人日本消防協会役員会議

理事会・代議員会（議長 片山会長）

平成21年度事業報告、平成21年度決算認定、会長及び副会長の推薦等各議案の説明が行なわれ、原案のとおり承認、決定及び認定されました。



代議員会 片山会長挨拶

皆様、全国から代議員会にご参集賜りましたこと厚くお礼を申し上げます。また日頃、日本消防協会の所轄の諸行事に大変なご理解とご協力を賜っております。

本日の代議員会は、昨年度の事業報告や決算認定もごございますけど、任期満了に伴います役員の変更等もございまして、しっかりとご審議の上、適正なご結論を出していただければ大変ありがたいと思っております。

私自身のことを言わしていただければ、平成18年から日本消防協会の会長をやらしていただきまして、今日に至りました。大変皆様のご協力を頂きましたが、5月末の任期をもって引かして

頂こうと考えております。会長を辞めましても日本消防協会の皆様と一緒に、消防防災の推進のために驥尾に付して頑張らせて頂きたいと思っております。

この代議員会で新しい体制が決まりますから、新会長のもと一致結束、日本消防協会の実力を天下に是非示していただきますように、皆様にそのためのご奮闘を併せてお願いいたしたいと思っております。

今日はどうもありがとうございました。心から御礼申し上げます。



代議員会 河野消防庁長官挨拶

皆様おはようございます。

消防庁長官の河野でございます。代議員会にご出席をさせていただきまして若干の時間を頂きましてご挨拶をさせていただきたいと思っております。まず、日本消防協会の皆様方には消防行政の推進に多大なご尽力を頂いておりまして、改めて感謝を申し上げる次第でございます。また只今、片山会長が今限りで御退任というお話を伺いましたけれど、日本消防協会の会長として消防行政の推進に多大なご尽力を頂いてまいりましたことを、改めて感謝を申し上げたいと思っております。

また、本日御出席の代議員の皆様方におかれましては、正に各都道府県の消防のリーダーとして、地域の安心安全の確保に、多大な御尽力・御貢献を頂いておりますことを、心から敬意と感謝を表する次第でございます。本当にありがとうございます。

皆様方を始めと致しまして、関係者の絶え間ない努力によりまして、我が国の消防は着実に発展をして参っております。そして、お陰様で日本国民から大変高い信頼を頂いております。しかしながら、我が国はご存知のとおり世界でも稀に見る災害の多発国でございます。毎年のように台風あるいは豪雨、さらには地震、こういった自然災害に見舞われております。特に近年は東海地震あるいは東南海地震、さらには首都直下型地震といった大規模地震への懸念も大変高まってまいっております。また火災につきましても、毎年火災予防の強化に努めてまいっておりますけれども、依然として毎年5万件を超える火災が発生しておりまして、そして住宅火災だけでも毎年千人を超える方々が亡くなっておられます。こうした自然災害あるいは火災に対して、さらに消防機関の体制を強化してその備えを強くしていく必要がございます。その際に地域全体の消防力・防災力を強化していくこととなりますけれども、正にその要となるのが消防団でございまして、私ども大変大きな期待を致して頂いているところでございます。また、御案内

のように消防団員数が減少してまいっておりまして、現在90万人を割り込んでおります。私どもは、日本消防協会との連携を図りながら、当面消防団員数100万人というものを目標として、その確保を確定したいと考えております。これまでも、消防団協力事業所の表示制度でありますとか、消防団確保アドバイザーの件でありますとか、様々な手段によりまして消防団員の確保をお願いしてまいっておりまして、依然として消防団員は減ってはおりますけれども、ここ数年は少し歯止めがかかってきているのかなという感じでございます。そして、全国の3分の1の市町村では、再び消防団員数が増加となってきております。私ども、今年度におきましても、消防団新戦力の確保のための予算を確保しまして、引き続き皆様方のご協力を賜りながら、消防団員の確保に努めていきたいと思っております。

それから20年度・21年度の補正予算におきまして、救助資機材搭載型の車両というものを消防団に配備をさせていただいておりまして、こういったものを活用しながら教育訓練を実施していただき、災害対応力の強化などを図ってまいりたいと思っております。どうぞ皆様方におかれましても、引き続きまして消防団員の確保、そして活動の充実、そして地域の安心安全の確保、更なるご尽力を頂きますようお願いを申し上げたいと思います。

終わりになりますけれども、日本消防協会の益々の御発展、そして皆様方の益々の御健勝と御活躍をお祈りいたしまして、簡単ではございますけれども、御挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○ 提出議案等

- | | |
|--------|---|
| 第1号議案 | 平成21年度事業報告について |
| 第2号議案 | 平成21年度決算認定について
監査報告 |
| 第3号議案 | 消防団員等福祉増進事業積立金規程（案）について
（理事会のみ） |
| 第4号議案 | 代議員会で推薦する役員（会長・副会長）について |
| 第5号議案 | 役員等の推薦について（理事会のみ） |
| 第6号議案 | 日本消防協会福祉共済事業等運営委員会規程（案）について
（理事会のみ） |
| 第7号議案 | 日本消防協会地震等防災対策委員会委員、女性消防団員確保対策委員会委員及び日本消防協会福祉共済事業等運営委員の委嘱について（理事会のみ） |
| 第8号議案 | 日本消防協会寄附行為施行細則の一部を改正する細則（案）について（理事会のみ） |
| 第9号議案 | 日本消防協会表彰規程の一部を改正する規程（案）について
（理事会のみ） |
| 第10号議案 | 平成22年度JKA補助事業の補助金交付申請書の提出について（理事会のみ） |
| 第11号議案 | 名誉会員の推薦について（理事会のみ） |

新たに推薦された正副会長は、以下の方々です。（任期は平成22年5月30日～平成24年5月29日）

会 長

高 木 繁 光

副会長

氏名	地区名	都道府県別
木村 勉	東京都	東京都
坂本 長男	東北地区	宮城県
嶋村 尚美	関東地区	神奈川県
浅野 辰夫	中部地区	岐阜県
芳野 茂	近畿地区	奈良県
丸山 正隆	中国地区	広島県
山本 忠	四国地区	愛媛県
豊永 義夫	九州地区	鹿児島県

新たに推薦された名誉会員

北海道	河合 雅雄 氏	(前北海道消防協会副会長)
埼玉県	中山 謙二郎 氏	(前埼玉県消防協会会長)
茨城県	大塚 光 氏	(前茨城県消防協会会長)
長野県	倉坂 正道 氏	(前長野県消防協会会長)
兵庫県	関山 巧 氏	(前兵庫県消防協会会長)
滋賀県	溝口 武 氏	(前滋賀県消防協会会長)
鳥取県	秋山 一郎 氏	(元鳥取県消防協会会長)
鳥取県	南葉 正明 氏	(前鳥取県消防協会会長)
広島県	大段 忠彦 氏	(前広島県消防協会会長)
香川県	近藤 辰一 氏	(前香川県消防協会会長)
福岡県	川口 大 氏	(前福岡県消防協会会長)

生活協同組合全日本消防人共済会の役員会議

財団法人日本消防協会の役員会議に引き続いて、全日本消防人共済会の理事会、総代会が開催されました。

全日本消防人共済会理事会、総代会

平成21年度事業報告及び決算の認定、平成21年度剰余金処分案等の各議案の説明が行われ、原案のとおり承認、決定及び認定されました。

○ 提出議案

(理事会及び総代会)

- 第1号議案 平成21年度事業報告及び決算の認定について
- 第2号議案 平成21年度剰余金処分案について
- 第3号議案 役員の変更について
- 第4号議案 「事業規約」及び「事業規約実施規則」の一部改正について

全日本消防人共済会理事会

先の総代会において承認された新たな理事23名により理事会が開催され、全日本消防人共済会の会長等の互選が行われ、高木繁光理事が次期会長に選出されました。

平成22年春の叙勲伝達式・褒章伝達式

総務省消防庁

◇ 春の叙勲（消防関係）

平成22年5月10日（月）、ニッショーホールにおいて、平成22年春の叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係者の方々です。

瑞宝小綬章	41名
旭日双光章	3名
瑞宝双光章	109名
瑞宝単光章	425名

◇ 春の褒章（消防関係）

平成22年5月14日（金）、中央合同庁舎第2号館地下2階講堂において、平成22年春の褒章（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々で紅綬褒章は、災害活動等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々、黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに業界の発展に大きく寄与した方々、藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防

の発展に大きく寄与した方々です。

紅綬褒章	2名
黄綬褒章	2名
藍綬褒章	73名

◇ 第14回危険業務従事者叙勲（消防関係）

平成22年5月13日（木）、日本青年館大ホールにおいて、第14回危険業務従事者叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受賞された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した方々です。

瑞宝双光章	489名
瑞宝単光章	130名

平成22年春の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 小	北 海 道	元 石狩北部地区消防事務組合厚田消防団 団長	かわ 河 合 雅 雄 (74)	瑞 双	北 海 道	元 富良野地区消防組合富良野消防団 団長	やま 山 本 弘 和 (73)
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	わた 渡 辺 忠 信 (77)	瑞 双	北 海 道	元 南宗谷消防組合浜頓別消防団 団長	よし 吉 田 吉 一 (76)
瑞 双	北 海 道	元 三笠市消防団 団長	おみ 岡 村 武 夫 (68)	瑞 双	北 海 道	元 東十勝消防事務組合浦幌消防団 団長	よし 吉 仲 政 伸 (73)
瑞 双	北 海 道	元 池北三町行政事務組合足寄消防団 団長	かわ 川 村 浩 之 (73)	瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消防組合岩内消防団 分団長	いし 石 橋 信 一 (76)
瑞 双	北 海 道	元 上川北部消防事務組合下川消防団 団長	うし 牛 角 輝 男 (72)	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務組合中標津消防団 副団長	お 小 原 正 二 (81)
瑞 双	北 海 道	元 石狩北部地区消防事務組合当別消防団 団長	しん 新 森 敏 幸 (80)	瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消防組合島牧消防団 副団長	かわ 川 岸 一 次 (76)
瑞 双	北 海 道	元 東十勝消防事務組合池田消防団 団長	なか 中 川 忠 隆 (74)	瑞 単	北 海 道	元 釧路東部消防組合厚岸消防団 分団長	かわ 川 原 和 美 (74)
瑞 双	北 海 道	元 深川地区消防組合深川消防団 団長	なか 中 村 哲 (78)	瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	くは 窪 田 久 雄 (75)
瑞 双	北 海 道	元 日高中部消防組合三石消防団 団長	ば 馬 塚 武 (75)	瑞 単	北 海 道	元 日高西部消防組合門別消防団 副団長	よま 熊 谷 孝 志 (74)
瑞 双	北 海 道	元 北後志消防組合積丹消防団 団長	ほ 細 矢 富 雄 (79)	瑞 単	北 海 道	元 赤平市消防団 副団長	こ 小 林 勝 男 (76)
瑞 双	北 海 道	元 利尻礼文消防事務組合利尻町消防団 団長	み 三 上 一 男 (75)	瑞 単	北 海 道	元 富良野地区消防組合富良野消防団 副団長	こ 小 谷 田 祐 治 (74)
瑞 双	北 海 道	元 根室北部消防事務組合標津消防団 団長	やま 山 崎 勲 (71)	瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事務組合岩見沢消防団 副団長	い 齋 藤 稔 (77)
瑞 単	北 海 道	元 函館市消防団 副団長	さわ 澤 田 幸 悦 (70)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市北消防団 分団長	ふじ 藤 田 貴 典 (87)
瑞 単	北 海 道	元 室蘭市消防団 分団長	すえ 末 吉 邦 夫 (71)	瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	まつ 松 浦 隆 隆 (75)
瑞 単	北 海 道	元 西十勝消防組合芽室消防団 副分団長	すぎ 杉 山 敏 (82)	瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 分団長	や 八 木 博 (79)
瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合今金町消防団 副団長	た 田 中 繁 (72)	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合長沼消防団 副団長	や 矢 壁 利 克 (75)
瑞 単	北 海 道	元 深川地区消防組合幌加内消防団 副団長	た 田 邊 稔 (75)	瑞 単	北 海 道	元 東十勝消防事務組合幕別消防団 副団長	やま 山 中 謙 治 (76)
瑞 単	北 海 道	元 千歳市消防団 分団長	ち 千 葉 信 一 (70)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市厚別消防団 分団長	やま 山 本 一 功 (87)
瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合上川消防団 分団長	つじ 辻 尚 富 (75)	瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組合北斗消防団 副団長	わか 若 狭 喜 代 志 (74)
瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合せたな町檜山消防団 団長	なか 中 島 勝 則 (70)	瑞 小	青 森 県	元 青森地域広域消防事務組合消防正監	ば 馬 塚 功 介 (70)
瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合仁木消防団 副団長	な 那 須 武 雄 (77)	瑞 双	青 森 県	元 田舎館村消防団 団長	く 工 藤 勝 幸 (72)
瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務組合川湯消防団 副団長	な 納 谷 幸 治 (77)	瑞 双	青 森 県	元 上北町消防団 団長	せ 瀬 川 與 一 郎 (70)
瑞 単	北 海 道	元 南十勝消防事務組合大樹消防団 副団長	な 奈 良 重 雄 (76)	瑞 双	青 森 県	元 田子町消防団 団長	ち 千 葉 周 一 (67)
瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 副分団長	はやし 林 晃 一 (75)	瑞 双	青 森 県	元 深浦町消防団 団長	ふく 福 澤 光 夫 (78)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	青 森 県	元 今別町消防団 団長	横 岡 宣 (72)	瑞 双	岩 手 県	元 一戸町消防団 団長	野 里 一 平 (71)
瑞 単	青 森 県	元 七戸町消防団 副団長	赤 沼 賢 一 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 岩泉町消防団 副分団長	大 崎 幸 造 (83)
瑞 単	青 森 県	元 市浦村消防団 副分団長	秋田谷 重 藏 (78)	瑞 単	岩 手 県	元 三陸町消防団 副団長	柏 崎 栄 一 (79)
瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	長 内 正 義 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 新里村消防団 副分団長	加 勢 幸 雄 (81)
瑞 単	青 森 県	元 稲垣村消防団 団長	帯 川 潤 二 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 北上市消防団 分団長	児 玉 三 千 雄 (73)
瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 分団長	小 林 義 一 (78)	瑞 単	岩 手 県	元 軽米町消防団 分団長	小 松 篤 志 (75)
瑞 単	青 森 県	元 鱸ヶ沢町消防団 分団長	今 仁 右 工 門 (76)	瑞 単	岩 手 県	元 普代村消防団 副団長	佐々木 一 實 (75)
瑞 単	青 森 県	元 倉石村消防団 団長	高 谷 富 士 男 (71)	瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 分団長	佐々木 清 人 (75)
瑞 単	青 森 県	元 平館村消防団 分団長	中 島 千 恵 男 (78)	瑞 単	岩 手 県	元 田野畑村消防団 副団長	佐々木 弁 藏 (81)
瑞 単	青 森 県	元 大畑町消防団 分団長	中 嶋 渉 (75)	瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 団長	佐 藤 喜 美 男 (73)
瑞 単	青 森 県	元 佐井村消防団 分団長	松 谷 勇 助 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 副団長	佐 野 重 三 (72)
瑞 単	青 森 県	元 青森市消防団 副団長	柳 谷 直 藏 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 沢内村消防団 分団長	高 橋 松 榮 (78)
瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 分団長	千 葉 速 雄 (73)	瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市唐桑消防団 副団長	伊 藤 俊 介 (76)
瑞 単	岩 手 県	元 藤沢町消防団 副分団長	千 葉 誠 (84)	瑞 単	宮 城 県	元 塩竈市浦戸消防団 副団長	尾 形 孝 雄 (74)
瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 副分団長	仁 田 順 宣 (83)	瑞 単	宮 城 県	元 牡鹿町消防団 分団長	奥 田 圓 夫 (82)
瑞 単	岩 手 県	元 西根町消防団 分団長	松 浦 喜 一 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 大河原町消防団 副団長	小 原 昭 治 (79)
瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 副団長	松 本 源 治 (73)	瑞 単	宮 城 県	元 亘理町消防団 団長	金 山 基 (77)
瑞 単	岩 手 県	元 花巻市消防団 分団長	村 岡 和 雄 (77)	瑞 単	宮 城 県	元 蔵王町消防団 団長	熊 坂 稔 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 分団長	吉 田 勝 美 (71)	瑞 単	宮 城 県	元 雄勝町消防団 副団長	今 野 太 郎 (80)
瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	針 生 進 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 南郷町消防団 分団長	齋 藤 昭 一 (82)
瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	若 生 義 郎 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 名取市消防団 副団長	佐 伯 勇 治 (76)
瑞 双	宮 城 県	元 矢本町消防団 団長	浅 野 勝 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 団長	庄 子 富 喜 (71)
瑞 双	宮 城 県	元 大崎町消防団 副団長	佐々木 良 悦 (71)	瑞 単	宮 城 県	元 米山町消防団 団長	鈴 木 清 喜 (72)
瑞 双	宮 城 県	元 松島町消防団 団長	高 橋 幸 喜 (76)	瑞 単	宮 城 県	元 山元町消防団 分団長	鈴 木 正 一 (82)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	宮 城 県	元 加美町消防団 副団長	すず 鈴木 しょう 悦 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 鹿角市消防団 副団長	い 伊 藤 いさむ 勇 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 南方町消防団 団長	すず 鈴木 まさる 守 (72)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市横手消防団 団長	おの 太 田 えつ 郎 (73)
瑞 単	宮 城 県	元 南三陸町消防団 副団長	たか 高 橋 しょう たろう (74)	瑞 単	秋 田 県	元 能代市消防団 分団長	おの 小 笠 原 まち 義 (83)
瑞 単	宮 城 県	元 塩竈市塩竈消防団 副団長	に 二 瓶 りん 吉 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 大雄村消防団 分団長	かま 鎌 田 しん 一 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 色麻町消防団 団長	はや 早 坂 とみ 穂 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 河辺町消防団 分団長	くま 熊 谷 けん 一 (80)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城野消防 団長	ふく 福 来 あき 男 (74)	瑞 単	秋 田 県	元 能代市連合消防団 能代消防団 副団長	こう 幸 坂 たけし 正 (77)
瑞 単	宮 城 県	元 本吉町消防団 団長	み 三 浦 かね ひさ 久 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 本荘市消防団 分団長	こ 小 松 しょう 一 (80)
瑞 単	宮 城 県	元 丸森町消防団 分団長	め 目 黒 みち 三 夫 (87)	瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 副団長	さ 佐 々 木 かつ じ 一 二 (78)
瑞 小	秋 田 県	元 秋田市 消防正監	たか 高 橋 ひろし 弘 (71)	瑞 単	秋 田 県	元 雄物川町消防団 副団長	さ 佐 藤 せい 吉 (74)
瑞 双	秋 田 県	元 仙北町消防団 団長	こ 小 松 けい 治 郎 (80)	瑞 単	秋 田 県	元 美郷町消防団 副団長	さ 佐 藤 けん 一 (72)
瑞 双	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 団長	さ 佐 々 木 りょう 一 (72)	瑞 単	秋 田 県	元 西仙北町消防団 分団長	さ 佐 藤 けん 蔵 (82)
瑞 双	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 団長	ま 前 川 ひさ 伴 (71)	瑞 単	秋 田 県	元 角館町消防団 副団長	か 菅 原 ま 興 太 郎 (78)
瑞 単	秋 田 県	元 八竜町消防団 団長	すぎ 杉 沢 くに 一 (74)	瑞 単	山 形 県	元 松山町消防団 分団長	たか 高 橋 しげ 雄 (67)
瑞 単	秋 田 県	元 雄勝町消防団 副団長	すず 鈴木 みゆき 實 (77)	瑞 単	山 形 県	元 遊佐町消防団 副団長	ちゅう 仲 鉢 りん 一 (66)
瑞 単	秋 田 県	元 千畑町消防団 分団長	たか 高 橋 きよし 清 (75)	瑞 単	山 形 県	元 温海町消防団 団長	ほん 本 間 かつ ひこ 彦 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 大曲市消防団 分団長	たか 高 橋 た 太 郎 (77)	瑞 単	山 形 県	元 村山市消防団 団長	まつ 松 田 いさむ 勇 (68)
瑞 単	秋 田 県	元 阿仁町消防団 分団長	たけ 武 田 ます し 司 (78)	瑞 小	福 島 県	元 郡山地方広域消防 組合 消防正監	か 門 澤 さわ じゅん 順 (72)
瑞 単	秋 田 県	元 八森町消防団 団長	なが 長 岡 しょう 四 郎 (73)	瑞 小	福 島 県	元 いわき市 消防正監	さ 佐 藤 いたる 至 (73)
瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 副団長	はた 晶 澤 たくみ 工 (72)	瑞 双	福 島 県	元 中島村消防団 団長	お 小 平 かず お 男 (70)
瑞 単	秋 田 県	元 若美町消防団 分団長	よし 吉 田 しょう 一 (73)	瑞 双	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	くさ 草 野 きよ 清 一 (65)
瑞 双	山 形 県	元 尾花沢市消防団 団長	たか 高 橋 しん 一 (80)	瑞 双	福 島 県	元 熱塩加納村消防団 団長	げん 玄 永 みつ お 男 (81)
瑞 双	山 形 県	元 小国町消防団 団長	わた 渡 部 れん たろう (74)	瑞 双	福 島 県	元 南郷村消防団 団長	すず 鈴木 のり よし 好 (65)
瑞 単	山 形 県	元 長井市消防団 分団長	か 加 藤 あき 夫 (69)	瑞 双	福 島 県	元 福島市消防団 団長	わた 渡 邊 よし ひろ 廣 (72)
瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 副団長	ご 後 藤 えつ りょう (70)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	き 木 村 まさし 清 (84)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	酒 井 一 雄 (66)	瑞 双	茨 城 県	元 土浦市消防団 団長	栗 原 宣 夫 (65)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	佐 藤 七 郎 (71)	瑞 双	茨 城 県	元 茨城町消防団 団長	郡 司 洸 洸 (71)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	鈴 木 幹 夫 (68)	瑞 双	茨 城 県	元 稲敷市桜川消防団 団長	根 本 新 一 (73)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	高 木 弘 夫 (70)	瑞 単	茨 城 県	元 鹿嶋市消防団 副団長	大 川 恵 司 (69)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	外 島 美 佐 雄 (81)	瑞 単	茨 城 県	元 七会村消防団 分団長	河 原 井 淳 (74)
瑞 単	福 島 県	元 会津若松市消防団 分団長	中 川 勇 吉 (78)	瑞 単	茨 城 県	元 常陸大宮市山方消防団 副団長	菊 池 春 雄 (72)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	中 村 登 (82)	瑞 単	茨 城 県	元 常総市水海道消防団 副団長	倉 持 一 夫 (74)
瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 副団長	星 榮 一 (76)	瑞 単	茨 城 県	元 取手市消防団 副団長	染 野 晃 (67)
瑞 単	福 島 県	元 二本松市消防団 団長	本 多 年 男 (71)	瑞 単	茨 城 県	元 利根町消防団 副団長	高 野 征 哉 (65)
瑞 単	福 島 県	元 大越町消防団 団長	安 田 壽 征 (66)	瑞 単	茨 城 県	元 北茨城市消防団 分団長	富 岡 至 豊 (69)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	吉 田 一 之 (74)	瑞 小	栃 木 県	元 宇都宮市 消防正監	荒 川 亮 一 (70)
瑞 双	茨 城 県	元 筑西市消防団 団長	飯 泉 信 (72)	瑞 単	栃 木 県	元 那須烏山市烏山消防団 団長	阿 部 郁 男 (68)
瑞 単	栃 木 県	元 小山市消防団 分団長	飯 島 眞 一 (73)	瑞 単	群 馬 県	元 伊勢崎市消防団 分団長	横 堀 太 (69)
瑞 単	栃 木 県	元 日光市足尾消防団 団長	石 川 洋 介 (68)	瑞 小	埼 玉 県	元 大宮市 消防正監	松 本 一 男 (74)
瑞 単	栃 木 県	元 足利市消防団 分団長	植 木 文 夫 (74)	瑞 双	埼 玉 県	元 三郷市消防団 団長	高 橋 雄 行 (69)
瑞 単	栃 木 県	元 那須塩原市西那須野消防団 副団長	菅 野 一 徳 (68)	瑞 双	埼 玉 県	元 吉川市消防団 団長	深 井 清 (70)
瑞 単	栃 木 県	元 真岡市消防団 副団長	渡 邊 紀 夫 (70)	瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 分団長	岡 井 丈 夫 (74)
瑞 小	群 馬 県	元 伊勢崎佐波広域市町村圏振興整備組合 消防正監	新 井 周 雄 (73)	瑞 単	埼 玉 県	元 さいたま市消防団 副団長	金 子 福 治 (74)
瑞 小	群 馬 県	元 高崎市等広域消防組合 消防正監	片 山 義 晴 (71)	瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 分団長	岸 堅 一 (76)
瑞 小	群 馬 県	元 前橋市 消防正監	山 下 種 一 (73)	瑞 単	埼 玉 県	元 草加市消防団 副団長	豊 田 是 治 (73)
瑞 双	群 馬 県	元 安中市消防団 団長	伊 与 久 進 (70)	瑞 単	埼 玉 県	元 川越地区消防組合 川島町消防団 団長	長 島 常 雄 (68)
瑞 単	群 馬 県	元 桐生市消防団 分団長	櫻 井 辰 夫 (72)	瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷市消防団 分団長	納 見 隆 治 郎 (70)
瑞 単	群 馬 県	元 前橋市消防団 分団長	高 橋 隆 夫 (75)	瑞 単	埼 玉 県	元 比企広域市町村圏 組合小川消防団 団長	野 澤 恒 雄 (76)
瑞 単	群 馬 県	元 高崎市消防団 分団長	田 中 秋 男 (71)	瑞 単	埼 玉 県	元 上尾市消防団 団長	山 田 滋 男 (72)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 小	千 葉 県	元 習志野市 消防正監	いち かく いさお 角 勲 (70)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	すず ぎん ただ え 鈴 木 忠 榮 (70)
瑞 小	千 葉 県	元 松戸市 消防正監	し むら まさ のぶ 志 村 正 信 (72)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	たけ だ かつむ 武 田 勉 (70)
瑞 双	千 葉 県	元 木更津市消防団 団長	あい た きよし 相 田 清 (73)	瑞 双	東 京 都	元 江戸川消防団 団長	たけ まつ せい たろう 武 松 成 太郎 (70)
瑞 双	千 葉 県	元 長生郡市広城市町 村圏組合消防団 団長	かぶ かん せん いち (68)	瑞 双	東 京 都	元 三宅村消防団 団長	ひら まつ かず 一 成 (70)
瑞 双	千 葉 県	元 夷隅町消防団 団長	しい な せき お 夫 (67)	瑞 単	東 京 都	元 日本堤消防団 分団長	あめ みつ たく ぞう 雨 宮 拓 三 (71)
瑞 双	千 葉 県	元 野田市消防団 団長	でら た やす 雄 寺 田 和 雄 (74)	瑞 単	東 京 都	元 荏原消防団 分団長	い しほ ひろ 圭 伊 城 宏 衛 (75)
瑞 双	千 葉 県	元 山武市消防団 団長	ふ せき さだ かず 一 (70)	瑞 単	東 京 都	元 本所消防団 副団長	いち かわ ひろ やす 市 川 博 保 (73)
瑞 双	千 葉 県	元 丸山町消防団 団長	よし むら よし み 吉 村 義 美 (68)	瑞 単	東 京 都	元 本郷消防団 副団長	いち はし かず のり 市 橋 一 徳 (67)
瑞 単	千 葉 県	元 習志野市消防団 団長	いし い とし 友 石 井 友 治 (67)	瑞 単	東 京 都	元 渋谷消防団 副団長	いわ 井 たかし 若 井 隆 (71)
瑞 単	千 葉 県	元 成田市消防団 副団長	ひら の しやう じ (69)	瑞 単	東 京 都	元 深川消防団 副団長	いわ きさき まさる 若 崎 勝 (65)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	おお かね みつる 大 鐘 満 (70)	瑞 単	東 京 都	元 赤羽消防団 副団長	いわ き かつ ひろ 若 瀬 勝 弘 (72)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	くろ たい あさひ 倉 田 彰 (71)	瑞 単	東 京 都	元 芝消防団 副団長	いん や のぶ 園 谷 信 雄 (69)
瑞 単	東 京 都	元 西新井消防団 分団長	しま むら ひで お 嶋 村 秀 雄 (77)	瑞 小	神 奈 川 県	元 厚木市 消防正監	ふじ い のぶ まし 藤 井 信 義 (73)
瑞 単	東 京 都	元 石神井消防団 分団長	た なか いさむ 田 中 勇 (77)	瑞 双	神 奈 川 県	元 川崎市高津消防団 団長	さい とも しげる 齊 藤 茂 (75)
瑞 単	東 京 都	元 四谷消防団 分団長	た ばた けん じゅ 田 畑 賢 樹 (76)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	たけ い まさ き 武 井 正 樹 (82)
瑞 単	東 京 都	元 牛込消防団 副団長	つゆ き まさる 露 木 勝 (72)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市伊勢佐木消 防団 団長	ふく だ ひろ とし 福 田 文 壽 (71)
瑞 単	東 京 都	元 杉並消防団 分団長	ない とう よし ひさ 内 藤 吉 久 (75)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横須賀市 消防正監	まつ もと きくじ 松 本 喜 久 次 (79)
瑞 単	東 京 都	元 本田消防団 分団長	の ぐち とし お 野 口 敏 男 (74)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市磯子消防団 団長	やす ひろ とも あき 安 室 俱 啓 (74)
瑞 単	東 京 都	元 金町消防団 副団長	ひろし やま りく とう (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市金沢消防団 分団長	あら い まさる 荒 井 勝 (74)
瑞 単	東 京 都	元 足立消防団 団長	ひら た だ ひこ 平 田 忠 彦 (71)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市緑消防団 副団長	いい だ まさ やす 飯 田 順 康 (76)
瑞 単	東 京 都	元 矢口消防団 分団長	ふ じなわ とし お 富 士 縄 壽 雄 (74)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市港北消防団 副分団長	か とう うめ まつ 加 藤 梅 松 (80)
瑞 単	東 京 都	元 羽村町消防団 団長	まち た かつ お 町 田 勝 男 (72)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市寿消防団 分団長	かね こ かつ お 金 子 一 男 (79)
瑞 単	東 京 都	元 葛西消防団 副団長	もり だ だ 忠 森 忠 (72)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市戸塚消防団 分団長	こ いずみ たつ お 小 泉 辰 男 (77)
瑞 単	東 京 都	元 新宿消防団 分団長	よめ はら くに お 米 原 國 男 (71)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市大岡消防団 分団長	こ ぼやし あき かず 小 林 揚 一 (76)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 旭 消 防 団 分 団 長	すず ぎ 木 やす お 夫 (75)	瑞 単	新 潟 県	元 両 津 市 消 防 団 分 団 長	も ぎ 増 が 家 ゆたか 裕 (76)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 須 賀 市 消 防 団 分 団 長	み 三 ひろ あき ひよ 人 (72)	瑞 単	新 潟 県	元 新 発 田 市 消 防 団 分 団 長	た 田 なか ひろし 廣 (77)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 神 奈 川 消 防 団 副 団 長	もち 餅 た かず お 雄 (77)	瑞 単	新 潟 県	元 巻 町 消 防 団 団 長	な が の 中 野 げん さく 源 作 (65)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 山 手 消 防 団 副 団 長	ゑ 屋 しろ かず ひさ 之 (77)	瑞 単	新 潟 県	元 下 田 村 消 防 団 副 団 長	は 長 谷 川 ひろし 源 (77)
瑞 双	新 潟 県	元 上 越 地 域 消 防 事 務 組 合 消 防 正 監	い し 石 た あき お 夫 (71)	瑞 単	新 潟 県	元 新 潟 市 東 消 防 団 副 団 長	は 羽 た ぶん まつ 松 (78)
瑞 双	新 潟 県	元 妙 高 高 原 町 消 防 団 団 長	えい 永 たか いち りう 郎 (68)	瑞 単	新 潟 県	元 出 雲 崎 町 消 防 団 団 長	ひ 日 やま まさ お 雄 (68)
瑞 双	新 潟 県	元 糸 魚 川 市 糸 魚 川 消 防 団 団 長	な 中 ひろ こう じ 治 (74)	瑞 単	新 潟 県	元 上 越 市 消 防 団 副 団 長	み 峰 ひろ つお お 雄 (67)
瑞 双	新 潟 県	元 阿 賀 町 消 防 団 団 長	は 波 田 野 の だ 夫 (66)	瑞 単	新 潟 県	元 十 日 町 地 域 広 域 事 務 組 合 十 日 町 市 消 防 団 副 団 長	み 宮 ざ げん くに いち 一 (65)
瑞 双	新 潟 県	元 上 越 市 消 防 団 副 団 長	わた 渡 なつ へい せう 藏 (75)	瑞 単	新 潟 県	元 湯 沢 町 消 防 団 分 団 長	もり 森 し 下 まさ まし 義 (80)
瑞 単	新 潟 県	元 白 根 市 消 防 団 副 団 長	い し 石 た しん じ 吾 (76)	瑞 単	新 潟 県	元 聖 籠 町 消 防 団 団 長	や 八 わた き なほ 田 (71)
瑞 単	新 潟 県	元 柏 崎 市 消 防 団 分 団 長	お 大 し お 恒 お 夫 (75)	瑞 双	富 山 県	元 宇 奈 月 町 消 防 団 団 長	お 大 かみ こう せい 生 (70)
瑞 単	新 潟 県	元 上 越 市 消 防 団 副 団 長	お 岡 もり 森 昭 晴 (71)	瑞 単	富 山 県	元 上 市 町 消 防 団 副 団 長	お 有 賀 てる お 雄 (77)
瑞 単	富 山 県	元 八 尾 町 消 防 団 分 団 長	い 井 う え ひさ 一 (84)	瑞 単	石 川 県	元 柳 田 村 消 防 団 分 団 長	うち 内 ひろ とし お 男 (77)
瑞 単	富 山 県	元 富 山 市 第 一 消 防 団 分 団 長	お 奥 し ま りょう いち 一 (83)	瑞 単	石 川 県	元 金 沢 市 第 一 消 防 団 分 団 長	し 清 みず いち りう 郎 (77)
瑞 単	富 山 県	元 婦 中 町 消 防 団 分 団 長	し 瀧 た に こう じ 治 (80)	瑞 単	石 川 県	元 能 登 町 消 防 団 副 団 長	せい 清 ざ だ お 雄 (73)
瑞 単	富 山 県	元 南 砺 市 消 防 団 副 団 長	た か 高 さき ひろし 博 (72)	瑞 単	石 川 県	元 七 尾 鹿 島 広 域 圏 事 務 組 合 第 1 消 防 団 副 団 長	な が の 中 村 げん 吉 (73)
瑞 単	富 山 県	元 砺 波 市 消 防 団 副 団 長	た か 鷹 や 恒 まさ 正 (72)	瑞 単	石 川 県	元 金 沢 市 第 二 消 防 団 分 団 長	も ぎ 増 の 野 ゆき ぼ 治 (76)
瑞 単	富 山 県	元 井 波 町 消 防 団 副 団 長	た に 溪 ひろし 齊 (77)	瑞 単	福 井 県	元 南 越 消 防 組 合 武 生 消 防 団 分 団 長	い 池 だ 田 み 稔 (77)
瑞 単	富 山 県	元 小 矢 部 市 消 防 団 副 分 団 長	た に 谷 ぐ ち けん じ 次 (86)	瑞 単	福 井 県	元 嶺 北 消 防 組 合 春 江 消 防 団 副 団 長	こ 小 ぼ や し 芳 み 見 (73)
瑞 単	富 山 県	元 黒 部 市 消 防 団 分 団 長	た 田 ひろ ひさ お 男 (78)	瑞 単	福 井 県	元 敦 賀 美 方 消 防 組 合 敦 賀 消 防 団 分 団 長	な が の 中 やま しげ じ 二 (73)
瑞 単	富 山 県	元 氷 見 市 消 防 団 分 団 長	にし 西 まさ のり 則 (78)	瑞 単	福 井 県	元 南 越 消 防 組 合 南 条 消 防 団 副 団 長	は し 橋 した あきら 明 (78)
瑞 単	富 山 県	元 富 山 市 消 防 団 副 団 長	み ず 水 ぐ ち とし ゆき 行 (71)	瑞 単	福 井 県	元 福 井 地 区 消 防 組 合 福 井 地 区 消 防 団 分 団 長	へい 平 ま ふみ お 雄 (74)
瑞 小	石 川 県	元 金 沢 市 消 防 正 監	ほ り 堀 とも あき 章 (70)	瑞 単	山 梨 県	元 牧 丘 町 消 防 団 団 長	し ょ う 精 じ い さ 伊 才 武 (69)
瑞 単	石 川 県	元 小 松 市 消 防 団 分 団 長	う え の 野 せん いち りう (74)	瑞 単	山 梨 県	元 甲 府 市 消 防 団 団 長	た か の 高 野 よし お 男 (68)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 梨 県	元 道志村消防団 団長	出 羽 公 昭 (70)	瑞 双	岐 阜 県	元 串原村消防団 団長	大 島 光 利 (65)
瑞 単	山 梨 県	元 南部町消防団 団長	望 月 進 (67)	瑞 双	岐 阜 県	元 岐阜市中消防団 団長	林 義 則 (72)
瑞 単	山 梨 県	元 上野原町消防団 副団長	和 智 利 光 (75)	瑞 双	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	村 瀬 安 由 (65)
瑞 小	長 野 県	元 長野市 消防正監	岡 村 榮之助 (72)	瑞 単	岐 阜 県	元 小坂町消防団 副団長	奥 田 栄 恵 (72)
瑞 小	長 野 県	元 南信州広域連合 消防正監	牧 島 忠 司 (70)	瑞 単	岐 阜 県	元 笠松町消防団 副団長	栗 本 昌 (79)
瑞 単	長 野 県	元 長野市消防団 副団長	荒 井 久 三 (62)	瑞 単	岐 阜 県	元 国府町消防団 副団長	瀧 川 清 司 (71)
瑞 単	長 野 県	元 佐久市消防団 分団長	上 原 勉 (62)	瑞 単	岐 阜 県	元 掛斐川町消防団 副団長	細 野 行 男 (69)
瑞 単	長 野 県	元 鬼無村消防団 団長	酒 井 政 人 (61)	瑞 小	静 岡 県	元 富士市 消防正監	加 藤 弘 弘 (70)
瑞 単	長 野 県	元 小諸市消防団 団長	中 澤 幹 雄 (61)	瑞 双	静 岡 県	元 磐田市消防団 団長	星 野 勝 (70)
瑞 単	長 野 県	元 小谷村消防団 団長	平 田 優 (63)	瑞 単	静 岡 県	元 由比町消防団 団長	石 川 正 巳 (63)
瑞 単	長 野 県	元 大鹿村消防団 団長	宮 下 弘 (66)	瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	勝 又 克 巳 (70)
瑞 双	岐 阜 県	元 上矢作町消防団 団長	安 藤 俊 郎 (73)	瑞 単	静 岡 県	元 小山町消防団 副団長	神 成 弘 之 (68)
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	鈴 木 貞 彦 (70)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市成章消防 団 団長	山 田 慶 明 (75)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	平 澤 義 行 (66)	瑞 双	三 重 県	元 一志町消防団 団長	岡 本 梯 治 (78)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	松 浦 弘 直 (71)	瑞 双	三 重 県	元 松阪市消防団 副団長	中 野 順 平 (69)
瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防司監	井 上 晴 世 (72)	瑞 単	三 重 県	元 四日市市消防団 副分団長	市 川 勇 (69)
瑞 小	愛 知 県	元 春日井市 消防正監	加 藤 功 (73)	瑞 単	三 重 県	元 尾鷲市消防団 団長	北 村 彰 敏 (64)
瑞 双	愛 知 県	元 豊明市消防団 団長	土 井 信 義 (70)	瑞 単	三 重 県	元 安濃町消防団 分団長	小 林 博 史 (67)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市旭丘消防 団 団長	江 崎 仁 良 (76)	瑞 単	三 重 県	元 桑名市消防団 分団長	西 田 稔 (72)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市光城消防 団 団長	加 藤 鉦 次 (72)	瑞 双	滋 賀 県	元 守山市消防団 団長	岩 井 久 壽 (82)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市老松消防 団 団長	加 藤 照 雄 (80)	瑞 双	滋 賀 県	元 滋賀中部地域行政 事務組合 消防正監	中 西 徳 夫 (73)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市志段味西 消防団 団長	北 野 正 一 (62)	瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	菴 原 潤 一 (69)
瑞 単	愛 知 県	元 春日井市消防団 分団長	林 時 男 (67)	瑞 単	滋 賀 県	元 草津市消防団 団長	島 田 善 勝 (68)
瑞 単	愛 知 県	元 春日井市消防団 分団長	堀 尾 憲 司 (70)	瑞 単	滋 賀 県	元 甲南町消防団 団長	田 中 一 郎 (69)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	滋 賀 県	元 能登川町消防団 団長	ふか おい し 司 (65)	瑞 単	京 都 府	元 京都市右京消防団 分団長	まつ 松 おい いち (75)
瑞 単	滋 賀 県	元 彦根市消防団 副団長	やま もと しげる (67)	瑞 単	京 都 府	元 舞鶴市東消防団 団長	やす はら のぶ お 男 (65)
瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	うえ た まさ み (80)	瑞 小	大 阪 府	元 高槻市 消防正監	おく だ みゆき (72)
瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	た 村 ひろし (78)	瑞 小	大 阪 府	元 八尾市 消防正監	かわ 川 にし ひろし (73)
瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 分団長	いけ ばた けん てつ (79)	瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	にし やま ひろし (77)
瑞 単	京 都 府	元 日吉町消防団 団長	い 藤 ひろ とし (64)	瑞 双	大 阪 府	元 大阪狭山市消防団 団長	やま もと とし はる (80)
瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	おお 大 えん た 左 男 (80)	瑞 単	大 阪 府	元 松原市消防団 分団長	あき だ ひで 夫 (68)
瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	すぎ はら みどり (83)	瑞 単	大 阪 府	元 河南町消防団 副団長	うち ぼし みつ かず (80)
瑞 単	京 都 府	元 瑞穂町消防団 団長	にし た ひろみ (64)	瑞 単	大 阪 府	元 富田林市消防団 副分団長	おく み しのぶ (77)
瑞 単	京 都 府	元 久御山町消防団 団長	の 野 ひら しゅう 三 (64)	瑞 単	大 阪 府	元 豊能町消防団 分団長	なか た えい ぞう (63)
瑞 単	京 都 府	元 京都市北消防団 分団長	ふじ 藤 い 慶 いち (78)	瑞 単	大 阪 府	元 羽曳野市消防団 団長	ひろ 野 たか 男 (71)
瑞 単	京 都 府	元 宇治市消防団 団長	はら 井 勝 夫 (68)	瑞 単	大 阪 府	元 茨木市消防団 分団長	あき 丸 やま のぶ 昇 (68)
瑞 小	兵 庫 県	元 神戸市 消防正監	にし た かず ま (75)	瑞 単	兵 庫 県	元 川西市消防団 副団長	たけ 竹 なか し りゅう (64)
瑞 双	兵 庫 県	元 姫路市 消防正監	あか まつ あみ お 夫 (79)	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	なが おか まさ かず (68)
瑞 双	兵 庫 県	元 出石町消防団 団長	あき た のぶ ひろ (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	はし 橋 もと かず しげ 成 (70)
瑞 双	兵 庫 県	元 加古川市 消防正監	いの うえ よし 樹 (73)	瑞 単	兵 庫 県	元 猪名川町消防団 団長	ふく だ とみ お 夫 (63)
瑞 双	兵 庫 県	元 姫路市香寺町消防 団 団長	しろ いし みつ ひろ (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 三田市消防団 分団長	ます だ あき ひろ (76)
瑞 双	兵 庫 県	元 神戸市兵庫消防団 団長	た なか ひろ あき (75)	瑞 双	奈 良 県	元 下市町消防団 団長	おお かわ りゅう すけ 助 (72)
瑞 単	兵 庫 県	元 龍野市消防団 分団長	いけ た より 雄 (65)	瑞 双	奈 良 県	元 上牧町消防団 団長	やま ぐち まさる (70)
瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 分団長	おお にし みさお (74)	瑞 単	奈 良 県	元 斑鳩町消防団 副団長	し 清 みず ひろ 雄 (75)
瑞 単	兵 庫 県	元 明石市消防団 分団長	お 尾 にし てる お 雄 (64)	瑞 単	奈 良 県	元 明日香村消防団 団長	しも だ かつ けい 行 (70)
瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市長田消防団 団長	こ 嶋 ひん ぞう (73)	瑞 単	奈 良 県	元 三郷町消防団 分団長	たに 谷 ち 口 のぶ 昇 (77)
瑞 単	兵 庫 県	元 今田町消防団 団長	ご 藤 幹 史 (72)	瑞 単	奈 良 県	元 十津川村消防団 分団長	たま き 清 かず (82)
瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	お 瀬 川 やす じ 次 (81)	瑞 単	奈 良 県	元 御所市消防団 分団長	ご 井 たかし (77)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	奈 良 県	元 天川村消防団 副団長	福 井 良 源 (74)	瑞 双	鳥 取 県	元 日南町消防団 団長	森 川 芳 明 (65)
瑞 単	奈 良 県	元 大和郡山市消防団 分団長	村 井 明 義 (74)	瑞 単	鳥 取 県	元 境港市消防団 分団長	木 村 隆 之 (75)
瑞 小	和 歌 山 県	元 和歌山市 消防正監	市 原 豊 (70)	瑞 単	鳥 取 県	元 倉吉市消防団 分団長	中 村 仁 三 (71)
瑞 単	和 歌 山 県	元 日置川町消防団 副団長	上 村 利 文 (75)	瑞 単	鳥 取 県	元 米子市消防団 分団長	白 子 備 一 (75)
瑞 単	和 歌 山 県	元 高野町消防団 団長	小 南 泰 宏 (65)	瑞 双	島 根 県	元 大和村消防団 団長	生 駒 治 利 (83)
瑞 単	和 歌 山 県	元 紀の川市粉河消防 団長	櫻 井 勇 (72)	瑞 双	島 根 県	元 松江市消防団 副団長	梅 木 貴美男 (70)
瑞 単	和 歌 山 県	元 吉備町消防団 分団長	碓 石 修 一 (80)	瑞 双	島 根 県	元 海士町消防団 団長	島 津 昭 造 (71)
瑞 単	和 歌 山 県	元 みなべ町消防団 団長	碓 幸 男 (66)	瑞 単	島 根 県	元 益田市消防団 副分団長	大 畑 道 夫 (85)
瑞 単	和 歌 山 県	元 古座川町消防団 副団長	洞 義 衛 (74)	瑞 単	島 根 県	元 穴道町消防団 団長	勝 田 幸 幸 (71)
瑞 単	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 副団長	松 本 和 之 (77)	瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 分団長	亀 谷 勲 (74)
瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 分団長	森 本 将 義 (85)	瑞 単	島 根 県	元 津和野町消防団 副団長	竹 内 寛 寛 (72)
瑞 小	鳥 取 県	元 西部広域行政管理 組合 消防正監	石 上 洋 二 (70)	瑞 単	島 根 県	元 大田市消防団 分団長	西 森 正 正 (80)
瑞 単	島 根 県	元 島根町消防団 団長	村 上 俊 (72)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	湯 浅 征 治 (68)
瑞 単	島 根 県	元 旭町消防団 副団長	柳 池 齊 (73)	瑞 単	岡 山 県	元 川上町消防団 団長	吉 本 守 介 (69)
瑞 双	岡 山 県	元 美甘村消防団 団長	松 尾 弘 通 (78)	瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	興 田 友 明 (66)
瑞 双	岡 山 県	元 真備町消防団 団長	水 川 文 男 (70)	瑞 小	広 島 県	元 広島市 消防正監	三 浦 次 雄 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 美作町消防団 副団長	尾 高 草 治 (69)	瑞 双	広 島 県	元 北広島町消防団 団長	平 石 隆 夫 (72)
瑞 単	岡 山 県	元 早島町消防団 副団長	小 池 康 太 (67)	瑞 単	広 島 県	元 新市町消防団 分団長	江 村 博 雄 (75)
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 副団長	角 南 賢 治 (65)	瑞 単	広 島 県	元 安芸津町消防団 分団長	大 本 芳 春 (81)
瑞 単	岡 山 県	元 神郷町消防団 団長	仲 田 睦 男 (69)	瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	川 村 忠 臣 (75)
瑞 単	岡 山 県	元 成羽町消防団 分団長	流 田 治 男 (75)	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	久 志 岡 俊 彦 (78)
瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	林 榮 一 郎 (70)	瑞 単	広 島 県	元 江田島市消防団 副団長	小 方 芳 次 (73)
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	藤 澤 秀 衛 (69)	瑞 単	広 島 県	元 高宮町消防団 副団長	兒 玉 征 之 助 (73)
瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	松 本 邦 男 (83)	瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防 団 分団長	酒 井 達 雄 (85)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	広 島 県	元 安芸太田町消防団 副団長	たか しほ とし みち 高 島 紀 通 (68)	瑞 単	山 口 県	元 美東町消防団 副団長	いの うえ のぶ まさ 井 上 宣 典 (70)
瑞 単	広 島 県	元 福山市消防団 分団長	た なか せふ いちろう 田 中 善 一 郎 (77)	瑞 単	山 口 県	元 阿東町消防団 分団長	かわ のの さだ おと 河 野 貞 夫 (72)
瑞 単	広 島 県	元 広島市東消防団 分団長	なか つとみ ひと み 中 岡 仁 水 (76)	瑞 単	山 口 県	元 下松市消防団 副団長	しも せき かつ とし 下 瀬 勝 利 (70)
瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	に にお かず とし 二 岡 壽 登 (77)	瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 分団長	しろ き かつ まさ 白 木 和 正 (73)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 副分団長	にし かわ ちよ ひろ 西 川 元 弘 (79)	瑞 単	山 口 県	元 錦町消防団 団長	すぎ やま かつ けい 杉 山 一 行 (68)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	ほり もと つとむ 堀 本 勉 (76)	瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団宇部 消防団 分団長	たか やま たい いち 高 山 英 一 (73)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐南消防 団 分団長	やま だに やす とし 山 谷 康 人 (86)	瑞 単	山 口 県	元 下松市消防団 分団長	はら だ けい ひこ 原 田 幸 彦 (72)
瑞 単	広 島 県	元 湯来町消防団 副団長	よし み ひと けい 吉 見 一 齊 (74)	瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	ふじ だ けん せう 藤 田 謙 藏 (75)
瑞 小	山 口 県	元 下関地区広域行政 事務組合 消防正監	てら ぐら ふう じ 寺 堂 富士雄 (70)	瑞 単	山 口 県	元 下関市消防団 副団長	ふる だに けん じ 古 谷 傳 治 (69)
瑞 双	山 口 県	元 橋町消防団 団長	あ だち まさ よし 安 達 雅 由 (75)	瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 分団長	まつ なが はら み 松 永 治 美 (75)
瑞 双	山 口 県	元 下関市消防団 副団長	お せき とも かつ けい 尾 崎 興 範 (68)	瑞 単	山 口 県	元 上関町消防団 団長	まつ げん しん けい 松 原 眞 介 (66)
瑞 単	山 口 県	元 山陽町消防団 分団長	あり ま ひと けい 有 馬 海 春 (76)	瑞 単	山 口 県	元 田布施町消防団 分団長	たか い げん いち 向 井 源 一 (76)
瑞 単	山 口 県	元 旭村消防団 分団長	や たた べい じょう じ 矢 田 部 昌 司 (77)	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	あら うち まさ けい 荒 内 正 則 (69)
瑞 双	徳 島 県	元 上勝町消防団 団長	あさ かわ しょう いち 朝 川 彰 一 (70)	瑞 単	香 川 県	元 山本町消防団 副団長	うさ のの たか お 植 野 隆 男 (76)
瑞 双	徳 島 県	元 鳴門市消防団 団長	あわ た けい せう ぞう 粟 田 啓 造 (72)	瑞 単	香 川 県	元 香川町消防団 分団長	おか ぶら とも お 岡 房 雄 (80)
瑞 双	徳 島 県	元 鴨島町消防団 団長	にし おか ひさし 西 岡 久 (70)	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	こう のの かつ お 幸 野 亀 雄 (78)
瑞 双	徳 島 県	元 鷲敷町消防団 団長	みや もと たけし 宮 本 武 (73)	瑞 単	香 川 県	元 直島町消防団 副団長	こ ばやし まさ けい 小 林 清 治 (80)
瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 分団長	おお ひら せい じ 大 村 誠 治 (66)	瑞 単	香 川 県	元 さぬき市消防団 副団長	てら お だだ お 寺 尾 直 男 (74)
瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 団長	かわ ひら やす ひろ 川 人 泰 博 (66)	瑞 単	香 川 県	元 寒川町消防団 副分団長	な くるま かつ いち 六 車 一 市 (79)
瑞 単	徳 島 県	元 上坂町消防団 団長	なか かわ じほ いちろう 中 川 潤 一 郎 (69)	瑞 単	香 川 県	元 坂出市消防団 副団長	やま にし きよ たか 山 西 清 高 (82)
瑞 単	徳 島 県	元 木沢村消防団 団長	もり もと さかえ 森 本 榮 (75)	瑞 双	愛 媛 県	元 松山市消防団 団長	うさ まつ けん じろう 上 松 健 次 郎 (66)
瑞 小	香 川 県	元 高松市 消防正監	く ぼ しょう けい けい 久 保 義 則 (70)	瑞 単	愛 媛 県	元 朝倉村消防団 団長	お ち けい じろう 越 智 次 郎 (64)
瑞 双	香 川 県	元 三豊市消防団 副団長	おお ふじ けい けい 大 藤 春 雄 (77)	瑞 単	愛 媛 県	元 小松町消防団 団長	かね ひら とも けい 金 久 豊 行 (67)
瑞 双	香 川 県	元 多度津町消防団 団長	たか しほ かつ み 高 島 勝 美 (78)	瑞 単	愛 媛 県	元 中山町消防団 団長	く ぼ た かつ けい 久 保 田 勗 (64)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	愛 媛 県	元 丹原町消防団 団長	黒 河 諄 (70)	瑞 単	高 知 県	元 中芸広域連合奈半利町消防団 団長	田 淵 登志夫 (70)
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 分団長	河 野 吉 實 (75)	瑞 単	高 知 県	元 土佐市消防団 副団長	西 本 辰 行 (70)
瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 分団長	合 田 稔 (79)	瑞 単	高 知 県	元 室戸市消防団 分団長	羽 坂 保 徳 (65)
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 副団長	戸 田 康 美 (75)	瑞 単	高 知 県	元 佐賀町消防団 副団長	山 本 規 (64)
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	友 近 靖 明 (67)	瑞 小	福 岡 県	元 飯塚地区消防組合 消防正監	楠 英 雄 (74)
瑞 単	愛 媛 県	元 瀬戸町消防団 副団長	山 本 眞 平 (74)	瑞 小	福 岡 県	元 福岡市 消防司監	多々羅 光 男 (70)
瑞 双	高 知 県	元 山田消防組合物部消防団 団長	岡 本 喜 身 (75)	瑞 双	福 岡 県	元 三潁町消防団 団長	酒 見 文 二 (72)
瑞 双	高 知 県	元 香南消防組合赤岡消防団 団長	西 岡 正 弘 (70)	瑞 双	福 岡 県	元 福岡市 消防正監	島 村 清 (74)
瑞 単	高 知 県	元 芸西村消防団 団長	井 上 洋 一 (68)	瑞 双	福 岡 県	元 香春町消防団 団長	毛 利 元 昭 (69)
瑞 単	高 知 県	元 四万十市消防団 副団長	桑 原 清 造 (69)	瑞 単	福 岡 県	元 行橋市消防団 団長	赤 金 利 明 (76)
瑞 単	高 知 県	元 土佐山村消防団 団長	高 橋 正 藏 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市戸畑消防団 分団長	大津留 壽賀男 (84)
瑞 単	高 知 県	元 安芸市消防団 副団長	穴 谷 口 美 洋 (66)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市東消防団 団長	堺 桂 (67)
瑞 単	福 岡 県	元 筑後市消防団 分団長	末 継 學 (75)	瑞 単	佐 賀 県	元 小城市消防団 副団長	江 原 照 治 (67)
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 団長	関 弘 毅 (74)	瑞 単	佐 賀 県	元 唐津市北波多消防団 副団長	合 力 政 秀 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 みやま市消防団 団長	田 中 一 幸 (60)	瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市佐賀消防団 副団長	角 田 善 行 (79)
瑞 単	福 岡 県	元 宗像市消防団 副団長	轟 俊 夫 (63)	瑞 単	佐 賀 県	元 白石町消防団 副団長	田 中 榮 (67)
瑞 単	福 岡 県	元 大任町消防団 副団長	永 原 勝 則 (70)	瑞 単	佐 賀 県	元 厳木町消防団 副団長	福 山 芳 廣 (73)
瑞 単	福 岡 県	元 方城町消防団 副団長	原 田 吾 郎 (78)	瑞 小	長 崎 県	元 長崎市 消防正監	井 上 良 彦 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 団長	藤 瀬 紀 元 (66)	瑞 双	長 崎 県	元 南島原市消防団 団長	石 川 嘉 則 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 大任町消防団 副団長	丸 山 初 雪 (72)	瑞 双	長 崎 県	元 峰町消防団 団長	永 留 兼 男 (75)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市若松消防団 分団長	米 井 智 國 (81)	瑞 双	長 崎 県	元 北有馬町消防団 団長	中 村 一 元 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 赤池町消防団 副団長	和 田 豊 (74)	瑞 双	長 崎 県	元 島原市消防団 団長	本 多 慶 次 (72)
瑞 双	佐 賀 県	元 東与賀町消防団 団長	弥 富 勝 純 (75)	瑞 単	長 崎 県	元 福江市消防団 分団長	大 戸 次 雄 (78)
瑞 双	佐 賀 県	元 唐津市北波多消防団 団長	前 田 一 郎 (81)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	末 竹 道 夫 (79)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	長 崎 県	元 西彼町消防団 副団長	なか の 野 とし 敏 あき 昭 (78)	瑞 単	熊 本 県	元 八代市消防団 副分団長	しも かわ くに みつ 光 (76)
瑞 単	長 崎 県	元 三和町消防団 副団長	はま ぐち とめ せう 藏 (72)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	つか もと とし づく 継 (69)
瑞 単	長 崎 県	元 大島村消防団 副団長	ひら まつ しげ かつ 夫 (77)	瑞 単	熊 本 県	元 八代市消防団 分団長	まち だ けん じ 二 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 新上五島町消防団 副団長	ふか うち まさ み 美 (71)	瑞 単	熊 本 県	元 有明広域行政事務 組合 消防正監	まつ うち かつ 勝 美 歸 (73)
瑞 単	長 崎 県	元 勝本町消防団 副団長	ふく た まさ おみ 臣 (71)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	むら やま かつ のり 徳 (67)
瑞 単	長 崎 県	元 西有家町消防団 副団長	ほん た とし 敏 昭 (70)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	よね りん てつ お 雄 (67)
瑞 単	長 崎 県	元 鷹島町消防団 団長	まえ 前 た 恒 たつ 達 (70)	瑞 双	大 分 県	元 臼杵市連合消防団 臼杵消防団 団長	か 甲 い ち 一 (75)
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	みづ の 野 のぼる 昇 (70)	瑞 双	大 分 県	元 日田市消防団 団長	ひら もと みよ 認 (72)
瑞 単	長 崎 県	元 小浜町消防団 団長	みや ぎ 高 幸 (70)	瑞 単	大 分 県	元 湯布院町消防団 副団長	あ 生 昌 平 (69)
瑞 双	熊 本 県	元 上村消防団 団長	なか の 村 じん 介 (70)	瑞 単	大 分 県	元 山香町消防団 副団長	か 阿 部 よし 兔 (71)
瑞 単	熊 本 県	元 山鹿市消防団 副団長	う 有 勤 てる 輝 一 (65)	瑞 単	大 分 県	元 直入町消防団 団長	お 小 野 幹 雄 (66)
瑞 単	熊 本 県	元 岱明町消防団 副団長	くろ さき やす 弘 (65)	瑞 単	大 分 県	元 山国町消防団 団長	あ 坂 内 ひろ 海 (68)
瑞 単	大 分 県	元 蒲江町消防団 副団長	たに 谷 川 まさ やす 康 (76)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 南大隅町消防団 団長	しも ぞの ぼし すけ 助 (72)
瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	ひら の 野 じん 市 (83)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 南さつま市消防団 副団長	しん 新 田 兼 男 (70)
瑞 単	大 分 県	元 日出町消防団 団長	まつ だ 田 いさお 勲 (66)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 出水市消防団 副団長	たま り 利 和 とし 敏 (73)
瑞 単	大 分 県	元 宇佐市消防団 団長	よし だ 田 公 夫 (71)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 東郷町消防団 団長	と 戸 木 田 せん 治 (79)
瑞 単	宮 崎 県	元 宮崎市消防団 団長	おに つか 東 しげ 基 (69)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 西之表市消防団 副団長	ひ 白 高 てつ お 男 (71)
瑞 単	宮 崎 県	元 五ヶ瀬町消防団 団長	か 甲 い 斐 まなぶ 肇 (70)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市横川消防団 団長	ふかの き かつ 勝 美 (71)
瑞 単	宮 崎 県	元 高千穂町消防団 団長	こう みき まさ 幸 正 (61)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 大崎町消防団 団長	やなぎ はら しげ 治 (74)
瑞 双	鹿 児 島 県	元 薩摩町消防団 団長	あか さき きよ ひで 秀 清 (77)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 高山町消防団 分団長	ゆき た 田 しげる 茂 (85)
瑞 双	鹿 児 島 県	元 中種子町消防団 団長	さき がわ やす 靖 次 (74)	瑞 単	沖 縄 県	元 宮古島市消防団 副団長	いけ ま 間 さだ お 夫 (72)
瑞 双	鹿 児 島 県	元 市来町消防団 団長	やま もと さち お 夫 幸 (74)	瑞 単	沖 縄 県	元 名護市消防団 部長	ひ が 嘉 つよし 健 (71)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 大根古町消防団 副分団長	いい 飯 隈 あきら 章 (78)	旭 双	長 崎 県	現 旭長崎県危険物安 全協会 会長	たいら 平 のぼる 昇 (72)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 串良町消防団 分団長	くろ まつ まさ お 雄 正 (79)	旭 双	長 崎 県	現 旭長崎県消防設備 保守協会 理事長	あき 島 き 一 (71)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
旭 双	沖 縄 県	現 沖縄県女性防火クラブ連絡協議会 会長	比 嘉 下 モエ (71)	瑞 小	東 京 都	元 消防庁消防研究所 研究企画官	神 忠 久 (74)

平成22年春の褒章受章者名簿 (消防関係)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	北 海 道	現 芦別市消防団 分団長	甲 斐 勝 博 (61)	藍 綬	栃 木 県	現 壬生町消防団 団長	関 本 和 夫 (57)
藍 綬	青 森 県	現 平川市消防団 団長	相 馬 清 孝 (61)	藍 綬	栃 木 県	現 岩舟町消防団 団長	廣 瀬 祥 二 (60)
藍 綬	青 森 県	現 鶴田町消防団 副団長	高 木 豊 博 (61)	藍 綬	群 馬 県	現 伊勢崎市消防団 副団長	矢 内 豊 (64)
藍 綬	青 森 県	現 三戸町消防団 副団長	百 沢 俊 昭 (55)	藍 綬	群 馬 県	現 大泉町消防団 副団長	湯 澤 政 三 (63)
藍 綬	秋 田 県	現 八郎潟町消防団 団長	三 戸 留 吉 (64)	藍 綬	千 葉 県	現 柏市消防団 副団長	赤 地 浩 一 (49)
藍 綬	山 形 県	現 中山町消防団 団長	秋 葉 憲 太郎 (58)	藍 綬	千 葉 県	現 松戸市消防団 副団長	小 暮 勝 正 (60)
藍 綬	山 形 県	現 遊佐町消防団 団長	高 橋 正 義 (60)	藍 綬	東 京 都	現 金町消防団 副団長	井 口 敏 夫 (60)
藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 副団長	岩 渕 仁 一 (63)	藍 綬	東 京 都	現 矢口消防団 副団長	梅 澤 博 喜 (62)
藍 綬	福 島 県	現 矢吹町消防団 団長	小 磯 勇 一 (61)	藍 綬	東 京 都	現 日本堤消防団 分団長	岡 田 精 一 (64)
藍 綬	茨 城 県	現 北茨城市消防団 団長	飛 田 和 義 (63)	藍 綬	東 京 都	現 石神井消防団 副団長	尾 崎 多 四郎 (62)
藍 綬	栃 木 県	現 栃木市消防団 副団長	石 崎 常 男 (62)	藍 綬	東 京 都	現 調布市消防団 団長	恩 田 哲 男 (59)
藍 綬	栃 木 県	現 矢板市消防団 副団長	江 連 茂 (60)	藍 綬	東 京 都	現 牛込消防団 副団長	木 本 幸 雄 (63)
藍 綬	東 京 都	現 小石川消防団 副団長	高 柳 博 一 (54)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市宮前消防団 分団長	白 井 昭 雄 (65)
藍 綬	東 京 都	現 高輪消防団 団長	宮 脇 和 夫 (60)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	宗 石 健 一 郎 (66)
藍 綬	東 京 都	現 西東京市消防団 団長	村 田 恭 男 (55)	藍 綬	富 山 県	現 砺波市消防団 副団長	江 村 一 義 (57)
藍 綬	東 京 都	現 葛西消防団 副団長	吉 田 敏 夫 (62)	藍 綬	富 山 県	現 上市町消防団 副団長	戸 田 滋 康 (61)
藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 分団長	小 川 渺 洋 (64)	藍 綬	石 川 県	現 輪島市消防団 副団長	山 崎 文 夫 (61)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 団長	茂 木 満 彦 (63)	藍 綬	大 阪 府	現 茨木市消防団 副団長	澤 田 勉 (61)
藍 綬	岐 阜 県	現 高山市消防団 副団長	岩 下 時 雄 (59)	藍 綬	大 阪 府	現 河南町消防団 分団長	田 中 九二男 (65)
藍 綬	岐 阜 県	現 大垣市墨俣町消防団 団長	武 山 榮 司 (58)	藍 綬	大 阪 府	現 松原市消防団 分団長	寺 内 昭 博 (59)
藍 綬	静 岡 県	現 浜松市消防団 分団長	梅 林 英 介 (59)	藍 綬	大 阪 府	現 池田市消防団 団長	藤 川 登 (57)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市植田南消防団 団長	浅 井 晴比古 (61)	藍 綬	大 阪 府	現 高槻市消防団 副団長	水 野 照 夫 (60)
藍 綬	愛 知 県	元 豊田市消防団 副団長	柴 田 弘 (51)	藍 綬	大 阪 府	現 泉佐野市消防団 分団長	森 下 秀 男 (60)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市堀田消防団 団長	兔毛成 績 (67)	藍 綬	兵 庫 県	現 神戸市東灘消防団 団長	伊 藤 繁 夫 (63)
藍 綬	三 重 県	現 鈴鹿市消防団 副団長	市 川 敏 敏 (61)	藍 綬	奈 良 県	現 安堵町消防団 分団長	近 藤 博 雄 (63)
藍 綬	三 重 県	現 四日市市楠消防団 副団長	坂 倉 義 信 (63)	藍 綬	奈 良 県	現 五條市消防団 副団長	名 迫 清 次 (65)
藍 綬	滋 賀 県	現 甲賀市消防団 副団長	大 林 欽 男 (57)	藍 綬	奈 良 県	現 御所市消防団 副団長	早 本 俊 裕 (63)
藍 綬	滋 賀 県	現 大津市消防団 副団長	村 田 敏 治 (61)	紅 綬	鳥 取 県	人命救助者	亀 田 保 志 (45)
藍 綬	大 阪 府	現 八尾市消防団 分団長	岩 田 保 一 (59)	藍 綬	鳥 取 県	現 江府町消防団 副団長	勝 見 純 (59)
藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 副団長	末 吉 正 三 (61)	藍 綬	福 岡 県	現 直方市消防団 団長	則 松 秀 秀 (71)
藍 綬	島 根 県	現 出雲市消防団 団長	三 成 重 徳 (64)	藍 綬	熊 本 県	現 宇城市消防団 副団長	中 崎 栄 俊 (46)
藍 綬	岡 山 県	現 備前市消防団 副団長	松 山 忠 義 (55)	藍 綬	熊 本 県	現 荒尾市消防団 団長	福 島 美 義 (65)
藍 綬	山 口 県	現 周南市消防団 副団長	林 正 幸 (64)	藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 副団長	前 田 勝 (61)
藍 綬	香 川 県	現 善通寺市消防団 副団長	山 尾 達 雄 (66)	藍 綬	宮 崎 県	現 宮崎市消防団 分団長	児 玉 孝 作 (60)
藍 綬	愛 媛 県	現 今治市消防団 分団長	尾 鷹 博 司 (59)	藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 副団長	廣 瀬 久 駿 (55)
紅 綬	福 岡 県	人命救助者	山 本 斉 史 (38)	黄 綬	富 山 県	現 防災電設(株) 代表取締役	森 弘 (69)
藍 綬	福 岡 県	現 宮若市消防団 団長	植 木 好 和 (80)	黄 綬	山 形 県	現 (株)ひらぎや 会長	山 口 為五郎 (85)
藍 綬	福 岡 県	現 飯塚市消防団 団長	尾 籠 勝 宣 (68)	藍 綬	栃 木 県	元 栃木県婦人防火ク ラブ連合会 会長	横 野 登代子 (64)
藍 綬	福 岡 県	現 筑後市消防団 団長	角 一 徳 (60)				

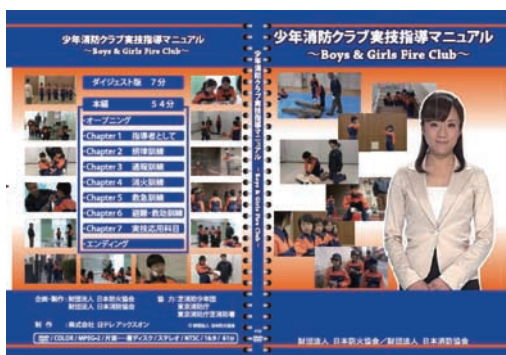
DVD『少年消防クラブ実技指導マニュアル』について

少年消防クラブ活性化推進会議

1. はじめに

少年消防クラブ活性化推進会議（事務局：財団法人日本防火協会及び財団法人日本消防協会）においては、芝消防少年団、東京消防庁芝消防署及び東京消防庁の協力の下、少年消防クラブ指導者がクラブ員等に対して行う実技指導時のポイントや留意点などを収録したDVD『少年消防クラブ実技指導マニュアル』をこのたび作成し、全国の消防本部（局）に配布しました。

ここでは、DVDに収録された内容についてご紹介します。



2. 実技指導マニュアルについて

(1) 構成

本マニュアルは、全体で7章から成り、「第1章 指導者として」、「第2章 規律訓練」、「第3章 通報訓練」、「第4章 消火訓練」、「第5章 救急訓練」、「第6章 避難・救助訓練」及び「第7章 実技応用科目」の各章で構成されています。

また、DVDには、ダイジェスト版（7

分）と本編（54分）が収録されています。

(2) 内容

各章ごとの主な収録内容は次のとおりです。

① 第1章「指導者として」

少年消防クラブ指導者は、防火・防災に対する知識技術の指導をすることが大きな目的ですが、成長期にある少年少女を指導していくという側面から、団体活動のリーダーとしてグループ全体に働きかけ、まとめていくという役割が求められます。ここでは、そのような少年消防クラブ指導者としての役割、基本的な心構えの確認及びクラブ員の安全や健康管理などについて収録しています。



② 第2章「規律訓練」

防火・防災活動において重要なことの一つが「チームワーク」です。消火活動、人命救助の緊迫した場面では、お互いが協力し合って強い信頼関係のもと、一つの活動に全力を注ぐことが大きな結果を生む最大の要素です。ここでは、この団体行動の基本となる規律訓練（基本動作

及び団体規律訓練) について収録しています。



③ 第3章「通報訓練」

火災が発生した場合、的確な通報ができるかどうかで、消火までの時間に大きな差が出るなど、通報は防火・防災活動においてとても大切なことです。ここでは様々な通報手段や、119番通報訓練装置を活用した訓練の様子を収録しています。

④ 第4章「消火訓練」

火災による被害を軽減するためには、何といても素早い初期消火が大切です。現在、各家庭でも住宅用火災警報器の取り付けが義務付けられ、消火器などの準備も普及してきてはいますが、いざという時に正しく消火器が使える、的確な初期消火活動が行えるかは日頃の訓練が大きく左右します。ここでは効果的な消化訓練（消火器の使用方法、小型動力ポンプの一連の動作説明など）について収録しています。



⑤ 第5章「救急訓練」

傷病者が発生した際、適切に応急手当を実施できる人材の育成は災害時における市民の自助、共助意識の向上を高めるばかりか、いざという時に手を差し伸べられるといった子どもたちの人格形成にもつながります。また、大規模災害時などにおいても、可能な限り人命の救助にあたる必要性を子どもの頃から学習することで、地域住民全体の救命率の向上が期待できます。ここでは、基本的な応急手当の方法を学んでいただくために、体温・脈拍の測定方法、三角巾を用いた包帯法、2種類の応急担架作成方法、心肺蘇生の4科目を取り入れた訓練の模様を収録しています。



⑥ 第6章「避難・救助訓練」

火災や災害が発生した場合、自分自身の身の安全を確保し、何に気をつけてどこに避難するのかを知っておくことは防災の第一歩ともいえる大事なことです。またケガを負った人や動けない人の救助をすることも地域の住民同士が助け合い安全な街を守るためにとっても大切なことです。ここでは、安全な避難を行う上での重要ポイントや救助の際に使用するロープの扱い方について収録しています。



⑦ 第7章「実技応用科目」

少年消防クラブの活動では、ボランティア精神の育成も大きな目的のひとつです。

そのために、消防関係者や施設、婦人防火クラブや自主防災組織など他のボランティア団体との交流を積極的に深め、活動の見学や同行、各種イベントへの参加など様々な体験を積める機会を提供することも指導者の役割です。ここでは、そのような行事活動、レクリエーション活動の事例などについて紹介しています。



3. 終わりに

少年消防クラブの指導者は単に消防に関する知識や技術を教えるだけではなく、人間としての成長を促し、将来立派な社会人として地域の防災リーダーとなりうる人材を育成するという、崇高な目標を持って取り組む素晴らしい活動です。

全国の少年消防クラブ指導者の皆さんにこの実技指導マニュアルDVDを積極的に活用していただくことにより、クラブ活動の一層の充実と活性化が図られることを期待しています。

※ DVDのダイジェスト版は、財団法人日本消防協会ホームページ (<http://www.nissho.or.jp/>) で見るすることができます。

【問い合わせ】

少年消防クラブ活性化推進会議
事務局

担当：中島（日本消防協会国際部）

TEL 03-3503-3053 FAX 03-3503-1480

E-Mail t-nakashima@nissho.or.jp

DVD『ドイツの青少年消防隊』の制作について

少年消防クラブ活性化推進会議

少年消防クラブ活性化推進会議（事務局：財団法人日本防火協会及び財団法人日本消防協会）では、ドイツ消防協会及び東京消防庁の協力を得て、このたび、青少年消防の活動が盛んなドイツを現地調査し、その活動状況等を収録したDVD『ドイツの青少年消防隊』を制作しましたので、その概要をご紹介します。



現地調査は、4月15日（木）から4月22日（木）までの8日間で行いました。具体的には、ドイツ消防協会の協力で、ニーダーザクセン州グレーネ村（人口約1,500人）のグレーネ青少年消防隊、ハンブルク市（同約175万人）のローブリュク青少年消防隊、ベルリン市（同約340万人）のシュターケン青少年消防隊のそれぞれ特徴的な活動状況等を視察するとともに、DVDに収録することができました。

DVDには、それぞれの青少年消防隊が行っている、実践的な訓練や競技大会向け練習の様子、幼年レベルの子供たちの関心を高める取組みのほか、実際に指導に当たっている義勇消防隊員へのインタビューなどが収録されています（収録時間：20分）。

DVDをご覧いただくと、ドイツ青少年消防隊が、実践的な訓練を通じて消防活動の魅力を若い世代へ伝えるだけでなく、将来の消

防活動の担い手として社会や地域への参加を促すという重要な役割を果たしていることがおわかりいただけると思います。

こうしたドイツでの取組みを参考にしながら、我が国の少年消防クラブ活動の一層の充実と活性化が図られることを期待するものです。

※DVDは、今後、全国の消防本部（局）などに配布する予定です。なお、収録内容は財団法人日本消防協会ホームページ（<http://www.nissho.or.jp/>）で見ることができません。



消防育英会評議員会・理事会

財団法人 消防育英会

○ 評議員会

財団法人消防育英会は、平成22年5月25日（火）午前11時から日本消防会館第2会議室において消防育英会評議員会を開催しました。

次の議案について審議がおこなわれ、原案通り決定しました。

議題

第1号議案 平成21年度事業報告及び収支決算について

○ 理事会

引き続き、午後1時30分から日本消防協会役員室において、理事会を開催し次の議案について審議がおこなわれ、原案通り決定しました。

議題

第1号議案 平成21年度事業報告及び収支決算について

報告事項 平成22年度（財）JKA補助金交付決定について



評議員会



理事会

—— 特別表彰「まとい」を受章して ——

「安全なまちづくり」に向けて

愛知県知多市消防団 団長 泉 章人



はじめに

平成22年2月10日、日本消防会館で行われた「第62回日本消防協会定例表彰式」において、日本消防協会会長から消防団として最高の荣誉である特別表彰「まとい」を受章いたしました。

市制40周年を迎える知多市にとって、永年の念願でありましたこの荣誉ある最高の章を全国数ある消防団の中から受章できたことは、我々消防団はもとより、知多市消防関係者にとりまして、このうえない喜びであり誇りであります。

これもひとえに、日本消防協会をはじめ、愛知県消防協会、愛知県内消防関係各位の温かいご支援、ご協力と本市消防団の永い歴史と伝統を受け継いでこられた諸先輩方の功績、そして、今日まで昼夜を分かたず消防団の使命を果たしてきた団員各位とその活動を陰で支えてこられたご家族のご理解、ご協力があったのことに深く感謝と御礼を申し上げます。



知多市の紹介

知多市は、愛知県の知多半島の北西部に位置し、西は伊勢湾に面し、全体として平坦な土地で、四季を通じて比較的温暖な気候に恵

まれた住みやすい街です。昭和34年の伊勢湾台風を契機として始められた名古屋南部臨海工業地帯の埋め立てにより大企業が進出し、今では、名古屋市のベッドタウンとして大きく変貌してきました。

内陸部の佐布里池周辺は、県内随一の梅の名所として知られ、海岸部には、人工海浜「ブルーサンビーチ」があり、ウインドサーフィンのメッカとなっています。そのほか、尾張万歳（国指定重要無形民俗文化財）や朝倉の梯子獅子（愛知県指定無形民族文化財）などが広く知られています。

知多市消防団の紹介

昭和22年、「消防団令」により、従来の警防団から、知多市の前身である八幡町、岡田町、旭村にそれぞれ消防団が結成されました。以後の変遷は次のとおりです。

- ・昭和34年、知多町消防団として統合結団。（14分団639名）
- ・昭和44年、14分団から10分団に整理統合。（300名）
- ・昭和45年、市制施行に伴う名称変更のため、知多市消防団となる。
- ・昭和60年、10分団から5分団に整理統合。（127名）
- ・平成16年、女性消防団員を採用。
- ・平成18年、消防団防災支援隊を発足。
- ・平成20年、消防副団長2人制となる。（128名）

現在は、団長1名、副団長2名、5地区の分団（1個分団あたり、分団長1名、副分団長1名、部長3名、班長4名、団員16名の合計25名）で構成されており、うち女性消防団員が11名となっています。消防車両は各分団に2台、合計10台を配置し、さらに消防団防災支援隊68名の協力体制を整えて火災や地震など有事に備えています。

知多市消防団の活動紹介

平成20年10月12日、知多市消防団の悲願であるとともに、夢であった全国消防操法大会の晴れの舞台に立つことができました。知多市消防団は愛知県消防操法大会で準優勝3回と後1歩のところまで、優勝を逃していました。準優勝で悔しい思いを胸に秘めた同じメンバーで臨み、平成20年の愛知県消防操法大会で初優勝を勝ち取ったものです。団員一丸となって、全国大会に取り組み、愛知県代表として精一杯健闘しました。この全国大会出場の経験を活かし、翌年の愛知県消防操法大会で2連覇の偉業を達成することができました。さらに、3連覇を目指す覚悟であります。

さて、年間主要行事（21年度）としましては、

- 4月、知多市消防団入退団式、知多市消防団員訓練、知多西地区（常滑市・東海市・大府市・知多市）交通法令講習会
 - 6月、第41回知多市消防団消防操法大会、知多西地区水上安全法及び救急法講習会
 - 7月、新舞子海岸警備
 - 8月、新舞子海岸警備、上級救命講習
 - 9月、知多西地区女性消防団員研修会
 - 10月、各地区コミュニティ防災訓練
 - 11月、秋季火災予防運動防火広報、知多市総合防災訓練、知多西地区消防連合演習
 - 12月、年末特別警備
 - 1月、知多市消防出初式
 - 3月、春季火災予防運動防火広報、知多市消防団観閲式
- 毎月、各分団で自主的に放水訓練を行ってお



り、火災の出場に備えて万全を期しています。

また、平成21年10月8日の台風18号の際には、全分団が出勤し、市内各地区の警戒にあたりました。なかでも、国道155号の東橋の崩落では、いち早く現場に駆けつけ通行止め等の二次災害防止に貢献しました。

そのほか、祭礼警備、高齢者などの行方不明者の捜索など、地域に根ざした活動もしています。

おわりに

知多市消防団は地域の実情に精通しており、動員力及び即時対応力が優れた組織として市民から期待されています。その期待に応えるべく女性消防団員の採用、消防団防災支援隊、平成22年2月から「消防団協力事業所表示制度」の導入など、さまざまな取り組みを行い、「安全なまちづくり」に尽くしています。

この度、受章した「まとい」を知多市消防団の象徴として、誇りに思い、我々消防団員一同、郷土愛護の精神に基づき、市民の生命、身体及び財産を守る決意であります。今後とも、この受章に恥じないようより一層の努力精進し、伝統を引き継いでいきます。

最後になりましたが、この榮譽ある受章にあたり、格別のご高配を賜りました日本消防協会、愛知県消防協会、知多市消防団関係の

皆様に改めて深く感謝の意を表し、更なるご発展と活躍をご祈念申し上げます。受章のご挨拶とさせていただきます。





“一団和気” 信頼される消防団を 目指して！



静岡県沼津市消防団 団長 山口 純一

1. 沼津市の紹介

沼津市は静岡県東部、富士山の南西部に位置し、市域は187.12km²、海岸線延長は62km、人口は約21万人、平成17年4月1日には隣接する田方郡戸田村と合併し、新生“沼津市”として新たなスタートを切りました。

沼津市には緑濃い松林が海岸線に約10km続く千本松原や首都圏のハイカーに人気の沼津アルプス、市の中心部を悠々と流れる狩野川などの豊かな自然環境や、日本一の生産量を誇るアジの干物、温暖な気候と豊かな土壌に育まれたお茶やミカンなどの農作物、静岡県東部地域の中心をなす商業、先端技術を活かした工業など多様な産業がバランスよく発展し、静岡県東部地域の政治、経済、文化の中心的役割を担ってきました。

◎ 沼津港大型展望水門“びゅうお”

駿河湾の新鮮な魚介類を求め年間100万人の観光客が訪れる沼津港には、幅40m、高さ9.3m、重量406tと日本最大級の扉体を有する沼津港大型展望水門“びゅうお”があります。

“びゅうお”は沼津港の内港と外港を結ぶ航

路から浸入する津波を防ぐため作られた水門で、その躯体を生かし、地上約30mの高さに展望回廊などが設けられ、霊峰富士山、南アルプス、駿河湾に突き出した大瀬崎など東西南北360度の展望を楽しむことができます。

◎ 沼津御用邸記念公園

沼津御用邸は明治26年に造営され、明治・大正・昭和の三代に渡り使用されましたが、昭和44年の廃止以降、記念公園として庭園などが整備され多くの来園者を集めています。

歴史民族資料館では、駿河湾で使われてきた漁具類や沼津の地場産業となった干物作りの道具、湿田耕作の資料などを展示しています。



沼津御用邸記念公園



戸田御浜崎から富士山を望む



沼津港大型展望水門“びゅうお”

2. 沼津市消防団の概要

沼津市消防団は現在、1本部、5ブロック、13方面隊、40分団で構成され、団員数は平成22年4月1日現在、条例定員999名に対して907名、充足率90.8%となっています。

各分団には、活動の拠点となる分団詰所、消防ポンプ自動車、ファクシミリ及び消防団無線機などが配備されているとともに、迅速な出動に寄与する目的から平成21年12月1日、従来運用されてきた順次指令装置及びファクシミリネットワークに加え、新たに携帯メール配信システムを導入し、音声、文字及び地図情報による複合的な災害情報の提供を行っています。

◎ 女性消防団員

平成4年7月に県内4番目の女性消防隊として“紫明隊（しめいたい）”が23名の団員をもって結成されました。紫明隊の由来は、沼津市の色が“紫”であること、消防の“使命”を担ってもらいたいという願いから命名されました。また、平成6年9月には「女性消防団員の役割を考える」をテーマに第1回全国女性消防団員活性化シンポジウムが沼津市民文化センターで開催され、全国から1,500名余りの団員が参加しました。

現在、女性ならではのきめ細やかさやソフトな対応を生かし、高齢者宅の防火診断、救急講習の講師及び各種広報活動等を行っています。

3. 沼津市消防団の活動と特色

沼津市消防団のモットーである“一団和気”には、団員の相互理解により協調と団結に努めるとともに、常日頃から規律と秩序を重んじ、市民から信頼される消防団員を目指すという願いが込められています。

沼津市消防団では団員の資質向上の一環として、第3級陸上特殊無線技士資格取得講習会、応急手当普及員資格取得講習会及びS-K-Y-T講習会等を開催しています。中でも、応急手当普及員資格取得講習会は、本年度で4年目を迎え、現在79名の団員が資格を取得



S-K-Y-T講習会



沼津市消防出初式での一斉放水

し各分団で実施する救急講習会や自治会などが主催する講習会に積極的に参加し応急手当の普及に当たっています。

4. おわりに

全国的に消防団員の減少が続いている中、当市においても条例定数に満たない状況が続いています。

また、団員全体の7割が被雇用者団員という現状から、平日昼間における災害に対する消防力の低下が危惧されています。これに対して、消防団OBを再入団させる等団員確保に向けて尽力しているところではありますが、決定的な打開策には至っていません。

沼津市消防団では、従来の操法訓練等に偏らない、より実践に即した訓練等の導入を図り、団員の消防技術の向上を目指しています。

これからも郷土愛護の精神の下、不断の努力を惜しまず、団員一丸となって地域の安全安心のため、その機動力と専門的な知識を生かし市民の負託に答えていきます。



「地域に根ざした 消防団員を目指して」



山形県遊佐町消防団 団長 高橋 正義

1. 遊佐町の紹介

遊佐町は、山形県の日本海側、秋田県との県境に位置し、面積208.41km²、人口約1万6千人で、北には日本百名山の1つ鳥海山を望み、西は日本海に接し、中心には水田が広がる自然豊かな町です。

稲作を中心とした農業が基幹産業であり、米や大豆、パプリカなど生活協同組合との契約栽培も行っています。また、メロンやうりい、日本海で取れる岩ガキも有名ですが、最近ではユリなどの花類の生産も伸びてきています。

鳥海山の伏流水が地表に湧き出る湧水が多くあり、この湧水を水源とする牛渡川がNHKの特集番組として放映されました。

また映画「おくりびと」のロケ地として観光客も増えてきています。

2. 遊佐町消防団の沿革及び組織

昭和29年8月1日に1町5村が合併し遊佐町が誕生したことにより、各消防団を統合し、6分団53部1,254名で発足しました。その後編成を繰り返し、平成22年4月1日現在で、7分団30部女子消防団9名を含む675名（定数700名）となっています。

消防車両等の装備については、消防ポンプ自動車7台、小型動力ポンプ付積載車10台、小型動力ポンプ61台を配備し防災活動や消火活動にあたっています。





る火災報知器についての各家庭への指導や助言、防火点検など、地域に根ざした活動を行い、住民の安全・安心の確保に努めています。

平成22年度には新たに女子消防団員9名が入団し、啓発活動等での活躍が期待されているところです。

3. 消防団の活動

遊佐町には、山、海、川があることにより、消防団は火災はもとより地震災害、津波災害、火山災害、水害、土砂災害など様々な災害に対応しなければなりません。そのためには、日頃の研修や訓練が大切になってきます。

まず消防団に入団しますと、新入団員は救急救命講習（Ⅰ）を受講し、応急処置の基礎を学びます。訓練等については、毎年1月の出初式から始まり、5月の春季消防大演習では、規律訓練や消防操法、団員による「梯子乗り」を披露しています。9月には町内の全集落が一斉に行う避難訓練を実施し、昨年度は3,514名の参加がありました。また、各分団で実施している総合防災訓練にも多くの地域住民から参加していただいております。水害に対処するために水防訓練も実施しています。

他にも防災活動として様々な活動を行っています。パレード・巡回による啓発活動、自主防災組織への訓練指導、花火大会や盆踊り大会等の警護、婦人防火クラブと一緒にやってい

4. おわりに

平成20年度に、耐震安全性第二類の構造を有する遊佐町防災センターが役場庁舎隣に完成し、これまで老朽化していた役場庁舎内にあった防災行政無線設備や電算システムを防災センター内に移動させることができました。これにより有事の際には、防災センターが活動拠点となり、対策本部の設置、情報収集、伝達、避難者の受入等が出来るようになりました。

私たち消防団員も地域防災のリーダーとしての自覚を持ち、信頼と魅力ある消防団員を目指し、住民の生命と財産を守るため一丸となって取り組んでいきたいと考えています。





「市民が主役のまちづくり」 をめざして（まちが元気であるために）



滋賀県守山市消防団 団長 美濃部 安一

はじめに

守山市は、滋賀県の南部にあり、琵琶湖の東岸に位置し、県内最大の河川である野洲川がつくった扇状地性三角州低地上に位置しています。市域の総面積は54.81km²、人口約77,200人（平成22年4月）を擁しています。

守山市の歴史は古く縄文時代早期から「国の成り立ちと福祉の魁」を明らかにできるところです。弥生時代からムラが次々と生まれ、その遺跡集落の構造等から当時の政治のあり方がわかる国指定史跡が残されており、当時のクニの中核と考えられたことから「邪馬台国」の所在地論にも加わった土地でもあります。

そうした守山市は、琵琶湖と野洲川の恵みを受けた豊かな自然風土、ゲンジボタルが乱舞する美しい水環境、そんな緑豊かな

環境を守り育てるなかで「のどかな田園都市」を標榜し、都市と自然が調和した暮らしやすい



まちとして発展しています。

消防団の紹介

本市消防団は、本部1、分団数8、団員数219名〔条例定数219名(内女性団員20名)〕で組織しています。そして、県下で唯一、ファンファーレ隊（15名）を組織し、市消防出初式等で市民に幅広く演奏披露しています。

消防車両等は、指令車1台、広報車1台、ポンプ車7台、小型動力ポンプ1台、ゴムボート3艇を配備し、また、市防災行政無線通信システムに消防団独自の団波を整備し、積載用無線機、携帯無線機を有効に活用し、防災啓発や災害発生に迅速に対応しています。また、毎月第一日曜日を防火点検日とし、全団員が各分団ごとに各種訓練や機械器具点検を行ない、これらの状況を団幹部が巡視するなど、組織としては小規模ながらも、非常に統制のとれた組織力のある消防団であると自負しています。



消防団の活動

消防団の教養教育活動として、初任団員・新任班長教育訓練並びに分団長以上研修（県消防協会支部主催）や滋賀県消防学校での教育訓練にも多く団員を計画的に参加させ、高度な知識と技能習得また人材育成に努めています。また、市民の安心へのつながりとして、消防署の協力を得て、普通救命講習会を毎年開催し、応急手当と救命処置を習得した団員の養成にも取り組んでいます。

さらに、消防団員としての基本である消防操法訓練を各分団独自に訓練を重ね、毎年7月に「市消防団操法披露会」を開催し、訓練の成果を市民に披露する機会を設けるなど、団員の士気の鼓舞にも取り組んでいます。

また、当消防団では、火災等の発災時の被害軽減のため安全第一・早期集結・早期出動が歴史ある団の使命として引き継がれています。このため、非常召集訓練（抜き打ち訓練）を毎年2回以上、実施しており、団幹部から消防団波にて災害想定場所へ出動させるなど、機動力を身につけるための実践に即した訓練を行なっています。

滋賀県内は、琵琶湖西岸断層帯等、多くの活断層が存在しており、本市においても市民に対する地震災害に対する危機意識の



高揚とこれらを含めた対策が急務ではありますが、消防団員が先頭に立って地域住民のリーダーとして日頃の自治会等の訓練指導にあたっているところです。

防火防災啓発活動では、常備消防による消防啓発運動「消防フェスタ」開催に協賛し、搦き立ての杵餅を市民に振る舞い、防火防災広報、消防団活動への理解に努めています。

また、平成16年4月に女性による消防団活動を推進するため15名による女性消防分団である守山サンレディース（MSL）を発足し、幼稚園訪問や福祉施設訪問等、幅広い活動を行っています。平成22年4月には5名の定数増員を実現し、先般、新たな女性消防団員5名の入団辞令を交付し、今後の更なる防火防災活動の展開に意を新たにしているところです。

終わりに

当市消防団は、今後とも、先人の築いてこられた崇高な歴史をしっかりと引き継ぐとともに、社会の情勢にも敏感に対応できる地域の防人組織として、各種消防防災関係機関と協力し、「安心・安全な地域社会」に貢献できる活動を行なっていきたいと考えています。





「やればできる」は みんなの合言葉



熊本県美里町消防団 団長 大原 明和

1. 美里町の紹介

本町は平成16年11月1日、旧砥用町・旧中央町が合併してできた、人口約12,000人の熊本県のほぼ中央に位置する、自然環境に恵まれた風光明媚な石橋、石段等の歴史を多く持つ町です。

少子高齢化、中山間地というハンディはありますが「小さくてもきらりと光る私たちの町」を合言葉に誕生しました。

国の重要文化財で単式アーチの美しい霊台橋をはじめ、大小様々な石橋郡(約50橋)、アタック・ザ・日本一でお馴染みの3,333段の石段と、石の建造物は町のいたる所にあります。



2. 美里町消防団の概要

我が消防団は新町発足と共に誕生しました。合併時は、団長1名・副団長3名・分団長11名・ラップ隊長1名・副分団長11名・部長22名・班長41名・団員520名、それに、女性隊長1名・副隊長2名・隊員36名で組織されましたが、団員数の減少等に

伴い、平成21年4月から、5分団体制に広域再編し、防災力の維持を行なっております。

装備に関しましては、ポンプ車3台、小型ポンプ積載車41台を各地区に配備しています。平成19年度には、日本消防協会から「消防団多機能型車輛」を交付していただき、各種災害の現場でその機能をフルに発揮し活躍しています。



3. 美里町消防団の活動

実は、東西南北平成20年3月号に続き2回目の掲載になります。前回の活動報告からさらに今回まで、美里町消防団は毎年、いろいろな出来事がありました。

平成20年3月から4月にかけて連続不審火が発生し、団員一丸となって約1ヶ月間に渡り明け方まで警戒にあたりました。結果的には団として最悪な結末となりました。

意気消沈の中、明るい町、元気な消防団を取り戻そうと、平成21年8月に熊本県が第1回の女性消防隊の軽可搬ポンプ操法大会を開催し、優勝すれば全国大会への出場権を与えてくださるという事で、本町女性消防隊25名が全国大会を目指し「やればできる」を合言葉に約9ヵ月間、それぞれ一つ間違えれば空中分解しそうに鬼気迫る気迫で練習に打ち込み、県大会では最終組に登場し、野球に例えれば9回裏逆転サヨナラ満塁ホームランの様な劇的な優勝を勝ち取りました。

県大会優勝後も県の代表として全国の頂点を目指そうと、さらに練習に励み、第19回全国女性消防操法大会では、全国準優勝の成績を収めることが出来ました。全国大会までの約1ヶ月間1人の脱落者もなく、全員で一つの目標に向かって本当に頑張ってくれました。感動で涙が出る思いでした。

実は本町女性消防隊、全国準優勝。タイムは1番でしたが平均年齢も46歳、最年少40歳と他の都道府県の代表の方たちと比べても年齢も上位のほうだったのではと思います。地元新聞にも「かあちゃん火消し目指すは日本一」と大きく取り上げて頂き「やればできる」を本当によく実践してくれたと思います。



熊本日日新聞 平成21年10月21日朝刊より

4. おわりに

ここ近年、いろいろな意味で全国的に登場してまいりました美里町消防団ですが、組織改編、行事等の見直し等、いろいろと時代に合った消防団を目指して日々進化しています。

今後も、全国の消防団から目標にされるような消防団を目指して活動してまいりますので様々なご意見等をお待ちしております。

最後に、全国の消防団の更なる活躍と、消防団員のますますのご健勝をご祈念申し上げます。





シンフォニー（岩手県）

「地域に必要な 女性消防団員を目指して」

岩手県滝沢村消防団 本部付部長
齊藤 和子

私の住む岩手県滝沢村は、豊かな自然環境と県都盛岡市に隣接することから、昭和40年代後半から宅地化が進み、現在では53,000人を超える人口日本一の村となっています。みちのくの初夏の風物詩「チャグチャグ馬コ」の発祥の地でもあり、秀峰岩手山登山の表玄関として知られています。

滝沢村消防団は、本部を中心に、ラップ隊と11分団で組織されており、女性消防団員は本部に属しています。女性消防団誕生のきっかけは、婦人消防協力隊が発展的解散をすることになり、平成15年4月に9名の団員で発足しました。あこがれの制服・活動服を支給され、初めて着用したときは身が引き締まりました。

その後、徐々に女性団員が増え、部長1名、班長4名体制となり、現在は28名で活動しています。

私たちは、火災予防活動の実施やAED使用方法、心肺蘇生、応急手当の仕方を受講、村ポンプ操法大会及び規律訓練競技会への参加、

火災防御訓練などを行っています。実際の火災現場にも出動します。

火災現場では、ホースを持たなくても手伝うことが沢山あります。本部設営や防御図作成の手伝い、ホースを頼まれれば持っても行きます。私が最初に火事現場で、それも住宅火災で焼死体も見ました。今でも目に見えます。とてもショックでした。そこで、火事は絶対出してはダメ、全てが焼失し命さえ無くすと思い、予防の広報活動をしっかり行わなければと本心から強く思いました。

全国火災予防運動に合わせ、広報車による啓発活動や住宅査察を行います。住宅査



察では、訪問先の人達が笑顔になってくれると、こちらも笑顔になり安心します。老人世帯を訪問したときは、「女の方が来てくれると親しみが湧くし、安心だね」と言われ、この仕事をして良かったと思います。

消防演習では、接客や進行補助、表彰の手伝いはもちろん、分列行進での表彰旗を持ち、標員を受け持っています。火災防御訓練では、広報、本部旗手、それと警備、交通整理を分担しています。

また、村ポンプ操法大会・規律訓練競技会では、審査の集計や進行と表彰の補助です。4年目からは女性団員だけで規律訓練競技会にも参加しました。進む方向、歩き方、列は乱れ、自分のいる場所が分からない人達がほとんどで、講習を受けながら夜遅くまでの練習が何日も続きました。3回目の出場で、結果は男性団員を押え、見事3位入賞！！

指揮者だった私はそれまでの悩み、苦しみ等一遍に吹き飛び、皆で喜びました。本当に嬉しかったです。私を信じて付いて来てくれた団員、見放さないで指導してくれた方々には感謝の気持ちでいっぱいでした。

ポンプ操法大会にも、小型ポンプの部でオープン参加しています。

選手は若い団員が多かったので、「子供が体調悪い」、「家族がまだ帰ってこないの



で子供を見る人がいない」、「仕事で遅くなる」などの理由で思うように練習ができませんでした。それでも、団員は練習をよくやってくれました。本番ではキビキビとして、とても逞しく思いました。

不安を抱えながらの発足でしたが、これまでの活動に理解を示してくれた家族はもちろんのこと、多くの方々に支えられていることに本当に感謝しています。様々な活動を経験していく中で、女性団員としての悩みも尽きませんが、これからも地域に必要な女性消防団員になりたいと思っています。

台風に対する備え

総務省消防庁 防災課

日本列島には毎年、夏頃を中心に台風が襲来し、大雨や強風による大きな被害をもたらされています。

平成21年8月には台風第9号が日本に接近し、非常に湿った空気が日本に送り込まれた影響で、九州地方から東北地方の広い範囲で大雨となりました。兵庫県佐用町で河川が氾濫し濁流が集落に流れ込むなど、この台風による死者・行方不明者は27名にのぼり、西日本から東日本の広い範囲で甚大な被害が発生しました。

また平成21年10月には、台風第18号が強い勢力を保ったまま上陸し、沖縄地方から北海道地方にかけての広い範囲で暴風となり、各地で猛烈な雨や竜巻が発生するなどして、5名の方が亡くなり、住家損壊、土砂災害、浸水等の被害が各地で発生しました。

台風による災害

台風が日本に接近すると、様々な災害につながる可能性があります。そのため、厳重に警戒する必要があります。

〔大雨による災害〕

台風に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、激しい雨が長時間にわたって降り続くことがあります。また、台風が日本から遠く離れていても、湿った空気が日本付近の前線に送り込まれ、大雨となることがあります。

大雨によって河川の堤防が決壊したり、水位が堤防の高さを越えたりすると、大規模な洪水につながります。また、大雨で山の斜面や崖などの地盤が緩み、土砂崩れやがけ崩れが発生したり、山肌の土砂が雨水とともに土石流となって一気に流れ下って災害をもたらすことがあります。

〔暴風による災害〕

台風の周りでは強い風が吹いています。平均風速15～20m/sの風であっても、歩行者が転倒したり、車の運転に支障が出る場合があります。さらに強くなると、物が飛んできたり、建物が損壊するなどの被害が生じるようになります。風速40m/sを超えると電柱が倒れることもあります。

また、台風の周辺では大気の状態が不安定になり、竜巻などの激しい現象が生じることがあります。

〔高潮・高波による災害〕

台風が接近して気圧が低くなると海面が持ち上げられます。そこにさらに強い風が吹き込んで、大きな高潮被害が発生することがあります。昭和34年に日本列島に上陸した伊勢



平成21年台風第9号に伴う災害
(写真提供：
消防科学総合センター)

湾台風では、名古屋港で通常よりも約3.5mも潮位が上昇するなど、高潮による大きな災害が発生しました。

また、台風の強い風によって高波が発生したり、台風が日本から遠く離れていても「うねり」となって日本周辺に高波が押し寄せることがあります。

台風に対する備え

台風は時として非常に大きな災害をもたらしますが、事前に台風の強さや進路を予測し、気象情報として発表される体制が整っているため、被害を未然に防いだり、軽減することが可能です。

台風が近づく前に、家庭においてはあらかじめ窓や雨戸の補強をする、避難する時に必要な非常持出品をまとめておく、家の中で数日間過ごすことができるよう備蓄しておく、などの備えを行うとともに、普段から避難場所までの経路をしっかりと確認しておきましょう。

また、災害時の避難において支援を要する災害時要援護者の方々が被害に遭わないよう、いざという時に誰が支援し、どの段階でどうやって避難するかなど、具体的な避難支援計画を定めておくことが重要です。

台風が近づく危険性が高まったら、常に台風に関する情報に注意してください。災害発生の危険性が高まり、市町村から避難勧告や避難指示などが出された場合には、早めに安全な場所に避難しましょう。

台風などの自然災害による被害に遭わないためには、災害に関する正しい知識を持ち、早めの行動を心がけることが重要です。また、普段から地域の防災訓練や防災行事に参加し、地域の人々が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に立って、災害による犠牲者を出さないために連帯感を持って防災活動に取り組むことが、災害被害の軽減につながります。

台風の強さ	中心付近の最大風速	風速と被害(新版 気象ハンドブック(朝倉書店)より)
強い	33m/s以上44m/s未満	〔40m/s〕 屋根が飛ぶ。小石が飛び散る。
非常に強い	44m/s以上54m/s未満	〔50m/s〕 倒れる木造家屋が多くなる。
猛烈な	54m/s以上	〔60m/s〕 鉄塔の曲がるものがある。

台風の強さと最大風速、被害の対応(気象庁資料より)

住民自らによる災害への備え

総務省消防庁 防災課

日本列島は、その位置、地形や気象などの自然条件から、地震、台風、集中豪雨、洪水などによる自然災害が発生しやすい環境にあります。

平成21年には、7月の中国・九州北部豪雨、同年8月の台風第9号による大雨、同じく8月に発生した駿河湾を震源とする地震など、全国各地で大規模な自然災害による被害が発生しました。

また現在、東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震などの発生が懸念されており、このような事態が発生すると、地震の揺れや津波などによって甚大な被害が広範囲に発生すると予測されています。

大規模災害時には被害が大きくなればなる程、消防などの公的機関による消火、救助、救急などの活動が追いつかなくなることが想定されます。例えば大地震が発生し、消防車はすべて出払い、道路はがれきで塞がれ、生埋めになっている人や怪我人がたくさんいたら——そこで大きな役割を果たすのが、地域住民自らによる防災活動です。

地域住民による防災組織として、自主防災組織があります。自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、地域で住民が自主的に結成する組織のことで、平常時には防災訓練の実施、防災知識の普及啓発、災害危険箇所の点検、資機材の購入・点検等を行っており、災害時には初期消火、避難誘導、救出・救護、情報の収集・伝達、給食・給水、災害危険箇所の巡視などを行います。平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を契機に、自主防災組織の重要性が見直され、全国各地で自主防災組織の育成が積極的に取り組まれるようになっていきます。

連携による活動の活性化

地域の安心安全を守るために活動している自主防災組織が、地域の垣根を越えて互いに連携したり、消防団、学校、企業など、地域の様々な防災活動団体と連携し、お互いの得意分野を活かして補完し合うことで、地域の防災力をより高めることが可能になります。

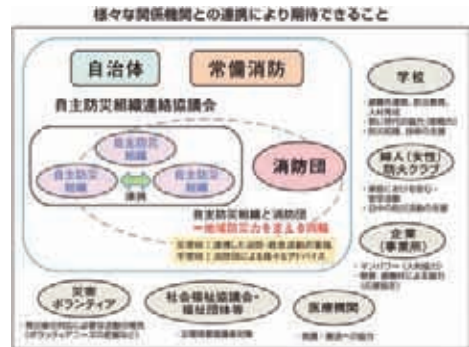
連携により可能となることを、連携先ごとに表したのが右上の図です。



(写真提供：埼玉県三郷市)

ここで、自主防災組織同士の連携による「自主防災組織連絡協議会」を設置した埼玉県三郷市の取組事例を紹介したいと思います。

三郷市は、総人口約13万人の東京のベッドタウンで、江戸川と中



川に挟まれた場所に位置しており、市内の低い地域では内水被害を受けてきた歴史があります。昭和63年に第1号となる自主防災組織が設立されてから、平成8年までに70を超える自主防災組織が結成されるに至りましたが、①組織数の増加に伴う消防署による訓練指導の限界、②個別組織による活動の限界、③他の自主防災組織との情報共有不足、などの課題がありました。

そこで、三郷市は、平成8年度に連絡協議会の設置に向け準備を進め、平成9年3月に連絡協議会を設置しました。合同訓練の実施や情報共有の促進など、各自主防災組織の連携協力体制を整備することにより、これまでの課題を克服しています。連絡協議会を設置・運営するにあたり、三郷市が工夫しているポイントは次のようなものです。

- ① 「連絡協議会の設立が必要」という考えを、市職員と自主防災組織が共有する。
- ② 訓練や災害時に特に協力し合える区域で、より密接なつながりを持つるように、市内を地勢等に応じて7ブロックに分け、ブロックで各種活動を実施している。
- ③ 事業に連絡協議会役員（自主防災組織の代表）が企画段階から参加することで「自分たちで」という意識が高まる。

このように、普段から地域の関係団体と連携・協力関係を築き、地域における人的ネットワーク（つながり、結びつき）を広げ、地域コミュニティの強化を図ることが、いざという時に大きな力となります。

自主防災組織については、消防庁が作成した「自主防災組織の手引」に詳しく記載しています。下記のURLからご覧になれますので、ぜひ参考にご覧ください。

http://www.fdma.go.jp/html/life/bousai/bousai_2204.pdf

花火・火遊びによる火災の防止

総務省消防庁 予防課

花火は楽しく安全に遊びましょう

夏の風物詩「花火」。いよいよ子どもたちにとって楽しみな季節となりました。

しかし、気軽に楽しめる花火も、取扱いを誤ると火事や火傷などの事故につながりかねません。実際に平成21年中、花火が原因である火災は、全国で72件発生しています。

火災や火傷などの事故が起こらないよう十分注意し、夏の楽しい思い出にしましょう。

火遊びによる火災を防止しましょう

子どもの火遊びによる火災は、大人がいない時に発生することが多く、そのため火災の発見が遅れ、火災が拡大する要因にもなりません。

また、平成21年中の火遊びによる火災は、1,952件発生しています。

そのうち、ライターによるものが1,135件(58.1%)で最も多く、次いでマッチによるものが186件(9.5%)、煙火によるものが72件(3.7%)となっています。

火遊びによる火災をなくすためにも、大人が子どもたちに対して火災の恐ろしさや正しい火の取扱い方法を教える必要があります。子どもの火遊びによる火災が起こらないよう、もう一度、子どもたちと火災の恐ろしさ・火の取扱いについて話し合うようにしましょう。

(各数値は「火災報告」による。)

花火で安全に遊ぶポイント

- ① 気象条件を考え、風の強いときは花火をしない
- ② 燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
- ③ 子どもだけでなく大人と一緒に遊ぶ
- ④ 説明書をよく読み、注意事項を必ず守る
- ⑤ 水バケツを用意し、遊び終わった花火は必ず水につける



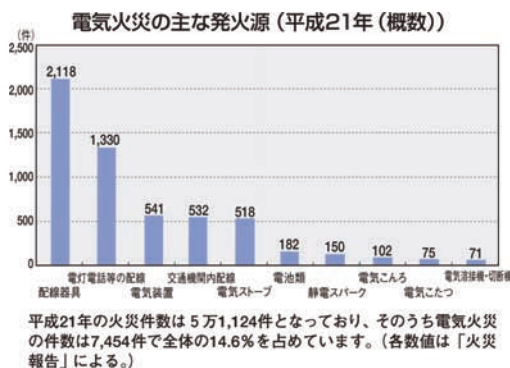
火遊びによる火災防止のポイント

- ① 子どもだけを残して外出しない
- ② ライターやマッチを子どもの手の届くところに置かない
- ③ 子どもだけで火を取り扱わせない
- ④ 火遊びをしているのを見かけたら注意する
- ⑤ 火災の恐ろしさ・火の取扱い方法についてきちんと教育する

電気器具の安全な取扱い

総務省消防庁 予防課

電気器具は便利なものですが、使用者の取扱いの不注意や誤った使用方法から火災となる場合があります。(下図参照)



電気器具を使用する際には、次のことに注意しましょう。

電気器具の点検の実施

扇風機や電気ストーブなどの季節的に使用する電気器具は、毎年使用する前に必ず点検をしましょう。また、使用中に普段と違った音や動きに気付いたときは、すぐに使用を止め、コンセントから差込プラグを抜いて、専門の業者に点検をしてもらいましょう。

電気器具の正しい使用

電気器具を本来の用途以外に使用した場合、器具に負荷がかかり、過熱し火災の原因になることがあります。使用に際しては、取扱説明書をよく読み、その機能を十分に理解し正しく使用しましょう。

また、アイロンやヘアードライヤーなどは、スイッチを切り忘れたまま放置しておくこと火災の原因となります。使用しないときは、機器のスイッチを切るだけでなく差込プラグをコンセントから抜いておきましょう。

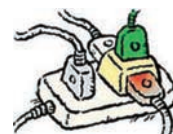


使用後はすぐにスイッチを切る習慣をつけましょう。

電気配線等からの出火防止

家電製品やOA機器の普及により、数多くの電気器具を使用するようになりました。

このため、使用する電気器具に対しコンセントが不足し、たこ足配線になりがちです。コンセントの電気の許容量を超えて電気器具を使用するとコンセントが過熱し、火災の原因となるので、たこ足配線は絶対にやめましょう。



たこ足配線はやめましょう。



傷ついたコードを使用しないようにしましょう。

また、差込プラグにほこりなどが付着したまま長い間コンセントに差し込んだ状態にしておくことにより、差込プラグの両刃間に電気が流れ、ショートして火災になることがあります(トラッキング火災)。外出時や就寝時はもとより器具を使用しない時には、差込プラグを抜いたり、付着したほこりなどを取り除くようにしましょう。

さらに、傷ついたコードを使用したり、束ねた状態や重い荷物が載った状態であると、その部分に負荷がかかり、断線して、出火する可能性がありますので、大変危険です。



コードを束ねて使うのはやめましょう。

傷ついたコードは早めに交換し、重い物を載せたり、束ねた状態での使用はやめましょう。

【注意事項】

- ① 使用しないときには、コンセントを抜く。
- ② たこ足配線は、絶対にやらない。
- ③ 差込プラグに付着したほこりなどは取り除く。
- ④ 傷んだコードは使用しない。
- ⑤ コードは束ねた状態で使用しない。

うちの

名物団員



静岡県



静岡県裾野市消防団 女性消防団員

二ノ宮 唯 (ゆい)

裾野市は日本一の富士山の麓に位置する自然豊かな市です。

そこで女性消防団員として活躍している二ノ宮さんを紹介します。

日頃は大学生として勉学に励みながら、消防団活動にも積極的に参加し、今まさにフレッシュな団員です。

また、二ノ宮さんの父、兄も消防団員として家族一丸で消防団活動を行っています。

消防団員確保が難しくなっている今日、二ノ宮さんの活躍をみて、若い世代の子達に積極的に入団してほしいものです。(本人は中央)

熊本県



熊本県美里町消防団 第1分団長

立道 修

くみあいプロパンに勤める40歳の分団長。100kgのボンベを軽々と担ぐ消防団でNo1の力持ちです。

高校球児だったため、消防本部管内の幹部のソフトボール大会ではもちろん4番！バットが軽すぎる～と言いながら、ソフトボールはピンポン玉のように飛んでいきます。

気は優しく力持ちとはこのこと！消防団でも要の存在です。(団長談)

富山県



富山県滑川市消防団 分団長

平井 義隆

昭和57年に入団した平井さんは、現在、分団長として地域を守る西加積分団の中心ですが、家業では瓦工務店で地域の屋根を守っています。

入団当初から体格を生かして操法選手として活躍してきましたが、若い団員にバトンタッチして後進の指導に

あたっている今は、選手時代に培った肺活量を活かしてリードボーカルを担当するおやじバンド「ザ☆フィフティーズ」を結成して、毎年ピクニックライブを開催したり、地域のイベントやラジオにも出演しています。

これからも地域に根ざし、地域のために防火広報の呼びかけを行って、消防団活動やバンド活動でたくさんの人々との出会いの場を大きく育てていってほしいです。





上村 繁幸

田野畑村は、リアス式海岸の海岸美「北山崎」をはじめ、200mを超える切立った断崖「鶴の巣断崖」など三陸海岸随一の景観が最高。この景色を地元漁師の操縦する小型船舶で奇岩・岩穴を巧にくぐりぬけるクルージングはまさに爽快。海面すれすれから仰ぎ見る高さ200m超の断崖は圧巻です。



上村副団長は、専門の漁師の傍ら田野畑村消防団員拜命以来37年余りの間、村の防災に努め、地元 机浜漁港 の歴史的貴重な番屋を中心とした村の観光産業にも務め、ボランティア精神で田野畑村の活性化の一翼を担っている。テレビの観光番組に出演したよー。

小松山 樹雄 田野畑村消防団長 談



寺西 弘行

うちの名物団員の寺西団員を紹介します。

平成16年10月に三重県上野市で行われた「フリスビー・ドッグ・日本一決定戦」ロングディスタンス・チャンピオンシップの部に愛犬のレイチェルちゃん（オーストラリアン・シェパード=メス）と出場し、見事全国優勝に

輝きました。

寺西団員はこの競技を始めてわずか2年目での快挙。大会前は、さぞかし血の出るような猛練習をしたのかと思いきや「毎日の朝・夕の散歩はしてたんですが、フリスビーを使っただけの練習は月に2、3回しかしてませんねん」と言うからビックリ。

現在は、父親で副団長である和彦さんとともに、消防団活動で活躍されています。



染谷 賢一

染谷賢一さんは、会社経営の傍ら戸隠流（とがくれりゅう）忍術（第34代目宗家（そうけ）初見（はつみ）良昭（まさあき））「武神館（ぶじんかん）染谷道場」道場長としても活躍している南方面隊長さんです。戸隠流忍術は古武道9流派八法秘（はっぽうひ）剣（けん）を取り入れた総合格闘技で、全身感覚に裏づけられた技の習得に日本人ならず外国人も多数門下生として修行しています。身軽な動きから繰り出される様々な技は災害現場で活かされる術（すべ）を含んでおり、団員からは「強さを秘めた忍術には心躍るものがある」と慕われています。忍！

消防団の広場

富山県

地域と消防団



富山県滑川市消防団
団長

西坂 継夫



滑川市消防団は、人口34,000人、面積54.61平方キロで富山湾と立山連峰に挟まれている管轄区域を1本部、8分団、330人（内女性10人）の団員であらゆる災害から市民を守るために活動しています。

毎年、7月の第1日曜日の早朝5時より、密集地火災防ぎょ等の延焼火災に備える訓練を実施した後、グラウンドに集結し、昭和58年以降続けている実戦操法大会を行っています。

この大会は、消防実戦活動の技術訓練として礼式及び障害物や危険物除去などの協定事項を定めた動作点と、操作始め

から消火までの時間点を合計審査しており、早さと確実な動作を各分団ごとに新入団員を含む若手団員を中心に習熟してもらおうと出場させています。

こうした各分団ごとの訓練や全体での総合訓練を通して、火災の被害を軽減するよう活動しているほか、火災での死者を一人でも少なくするためにと義務化された住宅用火災警報器が全世帯に設置されるよう啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

また、過去に富山湾特有の寄り回り波により滑川海岸が大きな被害に見舞われたことを教訓に、近年多発する集中豪雨等の風水害や地震に備えて、適切かつ迅速に対応できるよう日頃から災害に対する訓練と技術の習得に努め、全団員一致団結して地域の安全・安心に取り組んでいきたいと思っています。



消防団実戦操法大会

平成22年度 全国統一防火標語

「消したかな」 あなたを守る 合言葉

7月の日本消防協会関係行事

7月7日（水）～9日（金）	第22回全国消防操法大会第1回審査員研修会
7月22日（木）～23日（金）	消防育英会奨学生懇談会
7月29日（木）～30日（金）	第16回全国女性消防団員活性化奈良大会

編集後記

鉛色の空、重い空気が体にまとわりついて、うっとうしい季節となりましたが、「日本消防」愛読者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

これから梅雨も本番を迎えます。この時期、停滞する梅雨前線に南からの湿った空気が刺激をして、局地的に激しい雨が降りやすくなります。残念ではありますが、その影響で、毎年、大きな災害が起きております。近年、時間雨量100mmを超えるなど、記録的な大雨が発生し、「ゲリラ豪雨」という言葉も生まれました。消防機関を中心とする防災関係機関は、これまでの災害の教訓を踏まえ、各地で様々な水防演習等に取り組みされていることと思います。本年は、水防活動の出動がないことを心からお祈り申し上げます。

また、この時期は食中毒の発生しやすい季節です。家庭や職場でできる食中毒予防のポイントは、新鮮な物や消費期限を確認して購入、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫や冷凍庫に保存する、手洗いしきれいな調理器具を使い十分な加熱をする、食事前の手洗いの励行、食品を長時間放置しない、残った食品はきれいな容器に保存し再加熱することだそうです。皆様方も食中毒にならないために予防に努めてください。

(A・S)

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたく考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十三巻第六号
平成二十二年六月五日印刷
平成二十二年六月十日発行

編集人 岩田知也
発行所 財団法人日本消防協会

印刷所 東京都港区虎ノ門二一九一十六
電話 〇三(303)一四八一(代)

東京都千代田区外神田六―三―三
日本印刷株式会社
電話(383)六九七一(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

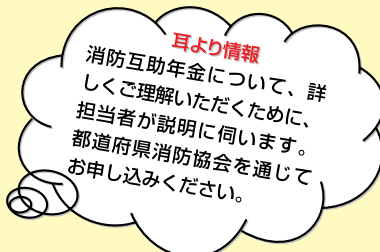
『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



「互助マル君」



耳より情報
消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
- 生活協同組合全日本消防人共済会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>